

<自主研究>

福岡県西方沖の地震についてのアンケート調査

調 査 報 告 書

平成 17 年 5 月

 **株式会社 サーベイリサーチ センター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

<自主研究>

福岡県西方沖の地震についてのアンケート調査
調 査 報 告 書

平成 17 年 5 月

 株式
会社 サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

目 次

I 調査概要

調査概要	1
------------	---

II 調査結果のまとめ

調査結果のまとめ 東洋大学社会学部教授 中村 功)	3
---------------------------------	---

III 回答者の属性

回答者の属性	5
--------------	---

IV 調査結果

1 地震発生時にいた場所	6
2 揺れている間の行動	7
3 地震当日、困ったこと	8
4 地震直後の情報源と情報内容のニーズ	9
5 地震に対する意識	11
6 地域の安全性	12
7 通信手段	14
8 災害用伝言ダイヤル【71）	17
9 テレビ・ラジオからの情報入手	19
10 被害状況	20
11 地震への備え	22

V 調査票 単純集計結果)

調査票 単純集計結果)	25
-------------------	----

VI 自由回答

自由回答	31
------------	----

付 サーベイリサーチセンターの業務案内

I 調 査 概 要

I 調査概要

1 調査目的

2005年3月20日10時53分頃に発生した福岡県西方沖の地震について、地震発生直後の住民の意識や行動を把握することで、今後の防災のあり方や住民の防災対策に役立てる基礎的な資料を提供する。

2 調査設計

① 調査地域

福岡市

② 調査方法

インターネットアンケートパネルを対象としたWebによるクローズド調査

③ 調査対象者

福岡市居住者

④ 抽出方法

クォーターサンプリング 割当法:福岡市人口の性・年齢別構成比に極力近付けるよう調整)

⑤ 回収数

349サンプル

⑥ 調査期間

2005年3月28日(月)～4月1日(金)

⑦ 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

3 調査内容

- 1 地震発生時にいた場所
- 2 揺れている間の行動
- 3 地震当日、困ったこと
- 4 地震直後の情報源と情報内容のニーズ
- 5 地震に対する意識
- 6 地域の安全性
- 7 通信手段
- 8 災害用伝言ダイヤル(171)
- 9 テレビ・ラジオからの情報入手
- 10 被害状況
- 11 地震への備え

4 集計にあたって

- ・集計は、回答者数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入している。このため、回答率の合計が、単数回答設問でも100%にならない場合がある。
- ・グラフ中の「n」は基数で、その質問に回答すべき人数を表す。

5 福岡県西方沖を震源とする地震について

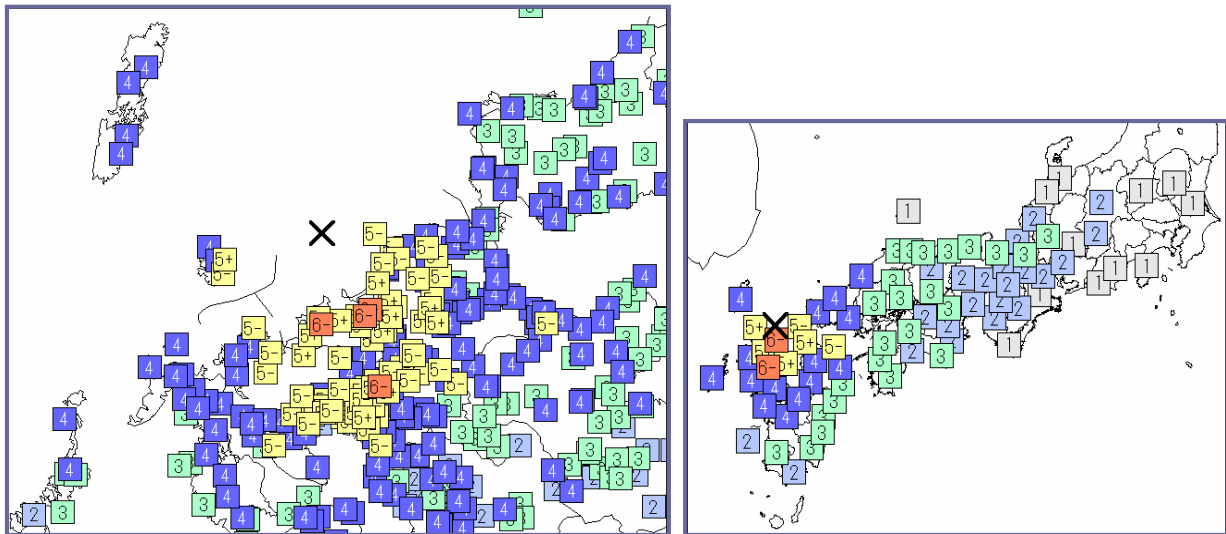
① 概要

平成17年3月20日（日）10時53分、福岡県西方沖を震源（深さ9km）とするマグニチュード M 7.0（暫定値）の地震が発生し、福岡県の福岡市中央区、東区、前原市、佐賀県のみやき町で震度6弱を観測したほか、九州北部を中心に、九州地方から関東地方の一部にかけて震度1～5強を観測した。

この地震により、気象庁は20日10時57分に福岡県日本海沿岸、壱岐・対馬に、「津波注意」の津波注意報を発表、20日12時00分にこの津波注意報を解除した。

気象庁によると、九州で震度6弱以上の地震を観測したのは、1997年5月13日の鹿児島県薩摩地方の地震（ M 6.4）により鹿児島県川内市で震度6弱を観測して以来、また、九州地方に津波注意報を発表したのは、1996年12月3日に発生した日向灘の地震（ M 6.7）以来である。

② 震度分布



震度6弱

福岡県	福岡市	前原市
佐賀県	みやき町	

震度5強

福岡県	須恵町	新宮町	志摩町
	大川市	碓井町	春日市
	久留米市	久山町	粕屋町
	二丈町	穂波町	
佐賀県	上峰町	七山村	
長崎県	壱岐市		

震度5弱

福岡県	大野城市	若宮町	高田町
	福津市	柳川市	夜須町
	篠栗町	志免町	遠賀町
	宗像市	大島村	小郡市
	朝倉町	浮羽町	大木町
	那珂川町	宇美町	中間市
	直方市	飯塚市	筑穂町
	大刀洗町	添田町	
佐賀県	久保田町	千代田町	白石町
	小城市	唐津市	鳥栖市
	諸富町	川副町	神埼町
	嬉野町	多久市	大和町
	三田川町	三瀬村	江北町
	東与賀町	北方町	
大分県	中津市		

II 調査結果のまとめ

II 調査結果のまとめ

東洋大学 社会学部 助教授 中村 功

1 調査の視点

福岡県西方沖地震の特徴を一言でのべると、地震への警戒が低い地域を襲った、典型的な震度6の地震災害」ということになるのではないだろうか。

鹿児島県や宮崎県といった九州南部では、震度6の地震は珍しいことではないが、福岡県では珍しい。政府の地震予知連絡会では、大地震の危険性が高い地域について、特定観測地域（全国8箇所）や観測強化地域（東海・南関東）を設定しているが、福岡県はそのどちらにも含まれていない。また地震調査研究推進本部が2004年に発表した「確率論的地震動予測地図」の試作版（西日本版）でも、

「50年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」は、福岡県は0.1～3.0%の範囲にある。これは5段階の色分けでいうと下から2番目のランクで、比較的低くなっている。こうしたことから、この地域はこれまで地震災害において、比較的ノーマークな地域であったといえる。

他方、我が国全体をみると、鳥取県西部地震（2000年、死者0、全壊435）、芸予地震（2001年、死者2、全壊69）、宮城県沖地震（2003年、死者0、全壊2）、宮城県北部地震（2003年、死者0、全壊1247）、十勝沖地震（2003年、行方不明2、全壊116）など、近年、震度6の地震が頻発している。今回の地震では死者1名（ブロック塀の下敷き）、負傷者1087人、全壊133棟（5月12日現在）という被害が発生したが、これは震度6の地震としては典型的な被害状況といえる。

ここで注目されるのは、震度6の地震による死者は、阪神大震災のように家屋が全壊して下敷きになるというのではなく、今回のようにブロック塀・外壁・ベランダ・シャンデリアなど、家屋の付属物が落下して発生するケースが圧倒的に多い、ということだ。それ故に、震度7には家屋の耐震補強が必須だが、震度6にはそれとは別の対策が重要となってくるのである。そしてこうした震度6の地震は、全国いたる所で、比較的頻繁に発生している。こうしたことを考えると、今回の地震から、頻発する震度6の地震対策にどのような教訓を引き出せるのか、ということが1つのポイントになってくるのではないだろうか。

2 調査結果

本調査の結果で、まず確認できるのは、ほとんどの住民が、まさか自分の住む地域でこうした大地震が起きるとは思っていなかった、という点である。すなわち、大地震の可能性について、全く思っていなかった人が58.7%、あまり思っていなかった人が28.7%と9割近くが否定的であった。逆に思っていた人はわずか2.6%であった。

実はこうした危機感のなさは、東海や南関東など、日頃から地震が警戒されている地域を除いて、全国的な傾向といえる。我々の調査によると、大地震があるかも知れないと思っていた人は、中越地震の被災地である十日町では1.3%、芸予地震の被災地でも5.9%にすぎなかったのである。

そして第二に、こうした安心感のせいで、この地域では地震対策が遅れていた事がわかった。本調査では、たとえば地震前の家具の固定率は6.6%、非常持ち出し品の準備率は6.3%にすぎなかった。その一方で、東京の家具の固定率は27.8%（東京消防庁調査）、十勝沖地震被災地（東京経済大調査）では30.3%、仙台市では25.1%（東大宮城県沖地震調査）など、地震の警戒地域では3割近くになっている。もちろんこれらの数字も高いとはいえないのだが、福岡地域では地震対策実施率は特に低いといえる。なお、家具固定率は芸予被災地で8.6%、中越被災地で6.7%と、福岡同様、低くなっている。）

一方、その他の項目については、近年の震度6の地震時と同様の結果が多くなっている。例えば、とっさの行動としては「じっと様子を見ていた」が多く、当日困ったこととして最も多いのは「携帯電話が使えなくなった」ことや「家族との連絡が取れなかった」である。あるいは、役に立ったメディアはNHKテレビで、知りたかったのは地震情報や余震の可能性であった。

また、大規模な停電のなかった今回は、パソコンのメールやウェブ検索が大変つながりやすかった。その他の通信手段としてつながりやすかったのは携帯メールで最もつながりやすかったのは携帯電話の音声であった。これらの点については、震度6の地震災害時における典型的な状況がみられる。

他方、一部の項目については、本調査の調査方法に起因すると思われる特徴もあった。例えば3割以上の人がインターネットで情報収集をしており、災害用伝言ダイヤルの利用率も5.5%と、いずれも高めになっている。これらの数字は、ネット調査なので若干高めになったのかもしれない。

3 まとめ

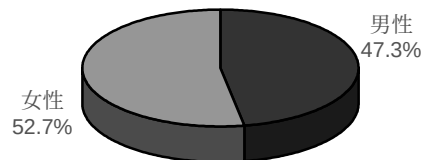
以上の結果から、今回、地震への警戒心が低く、対策も進んでいない地域で、典型的な震度6の地震災害が起きたことがわかる。

最近の地震では、負傷者の3割から5割が家具の転倒・落下によるもので（中越41.2%、宮城県北部49.4%、十勝沖36.3%－東京消防庁資料）、負傷原因の最大のものとなっている。特に震度6の地震では、家具の転倒防止など、比較的容易にできる対策で、大きな効果が期待できる。今回のように、大地震の発生確率が高くないと思われている地域では、耐震強化も重要だが、まずは落下物対策など、震度6の地震に対する対策を着実に進めるべきなのではないだろうか。

III 回答者の属性

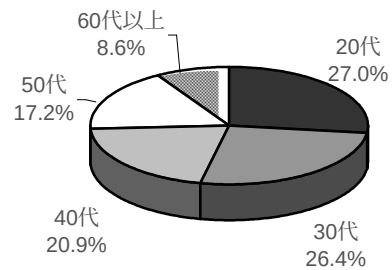
Ⅲ 回答者の属性

性別



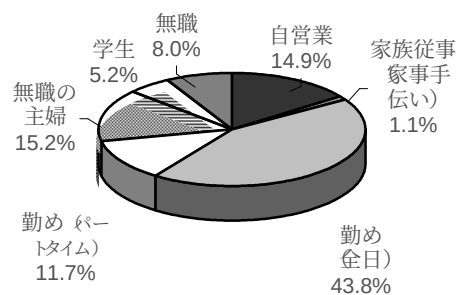
n=349

年齢



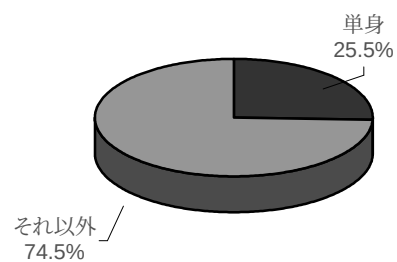
n=349

職業



n=349

家族形態



n=349

IV 調查結果

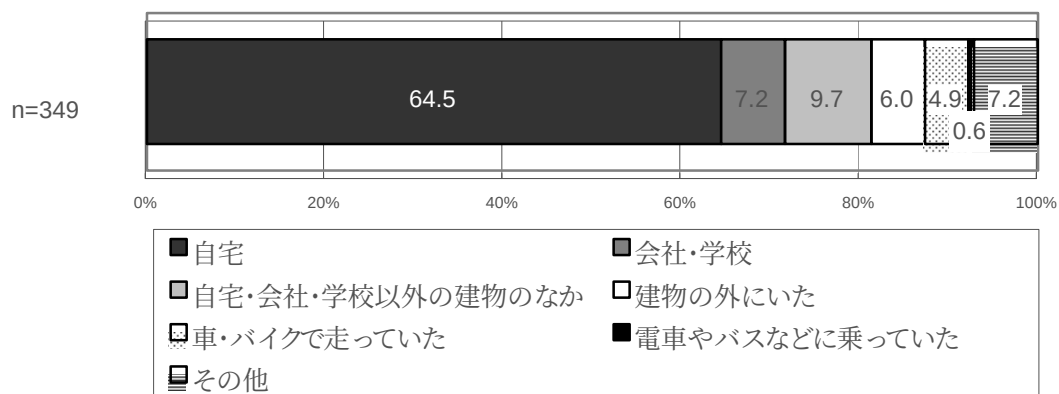
IV 調査結果

1 地震発生時にいた場所

屋内にいた人が8割強

地震発生時にいた場所は、今回の地震が日曜日の午前中に発生したこともあり「自宅」が64.5%と最も高く6割台半ばを占める。また、「会社・学校」(7.2%)、「自宅・会社・学校以外の建物のなか」(9.7%)を合わせると、8割強が屋内にいたことになる。

地震発生時、あなたはどこにいましたか。



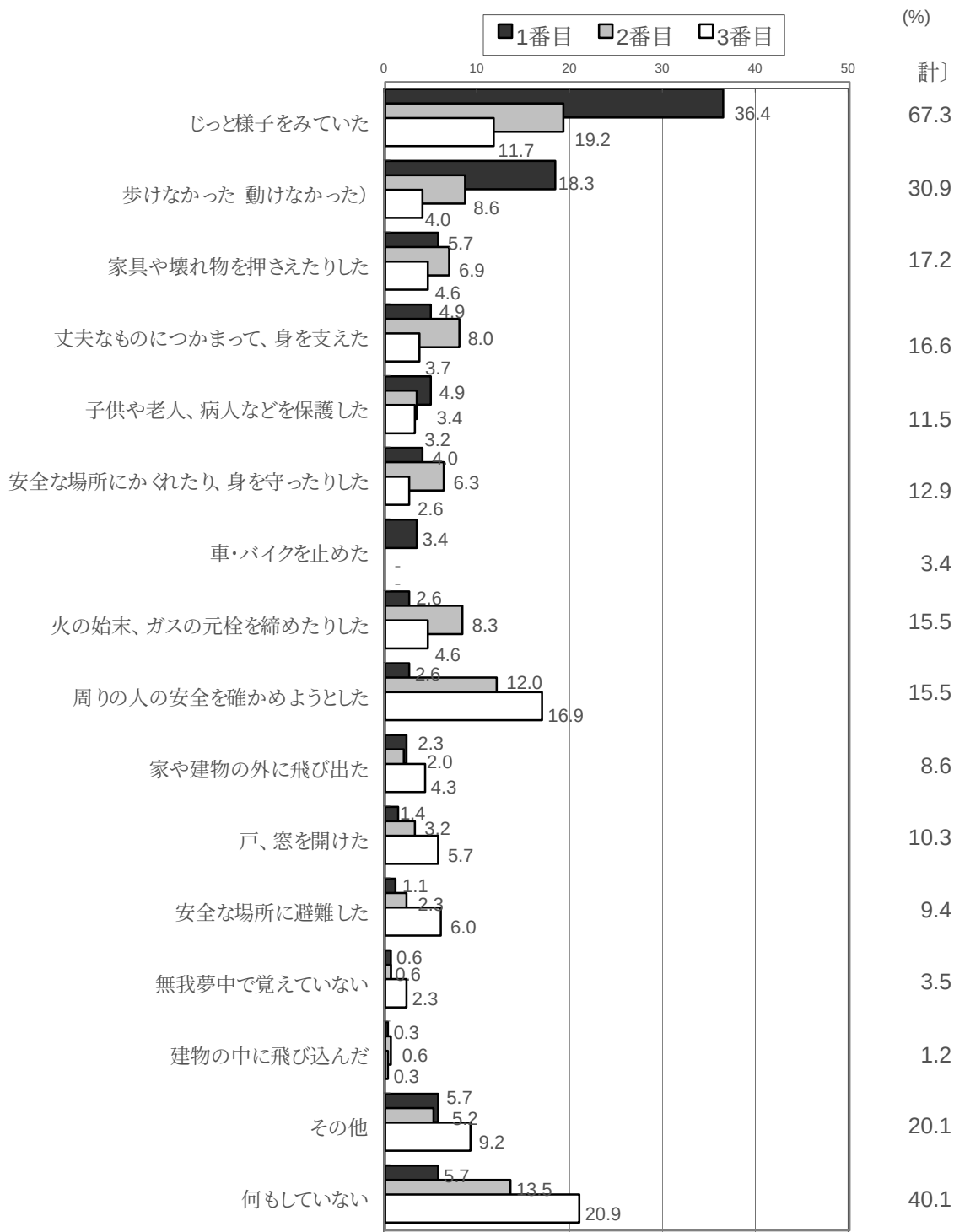
2 揺れている間の行動

最初の行動では「じっと様子をみていた」が3割台半ば

揺れがおさまるまでの間に出来た最初の行動としては、「じっと様子を見ていた」が36.4%と最も高く3割台半ばを占め、歩けなかった 動けなかった」が18.3%となっている。

次に出来た行動では、「じっと様子を見ていた」が19.2%と最も高くなっている一方で、周りの人の安全を確かめようとした」が次いで多く12.0%となっている。

地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか(最初にしたものから順に3つまで)。



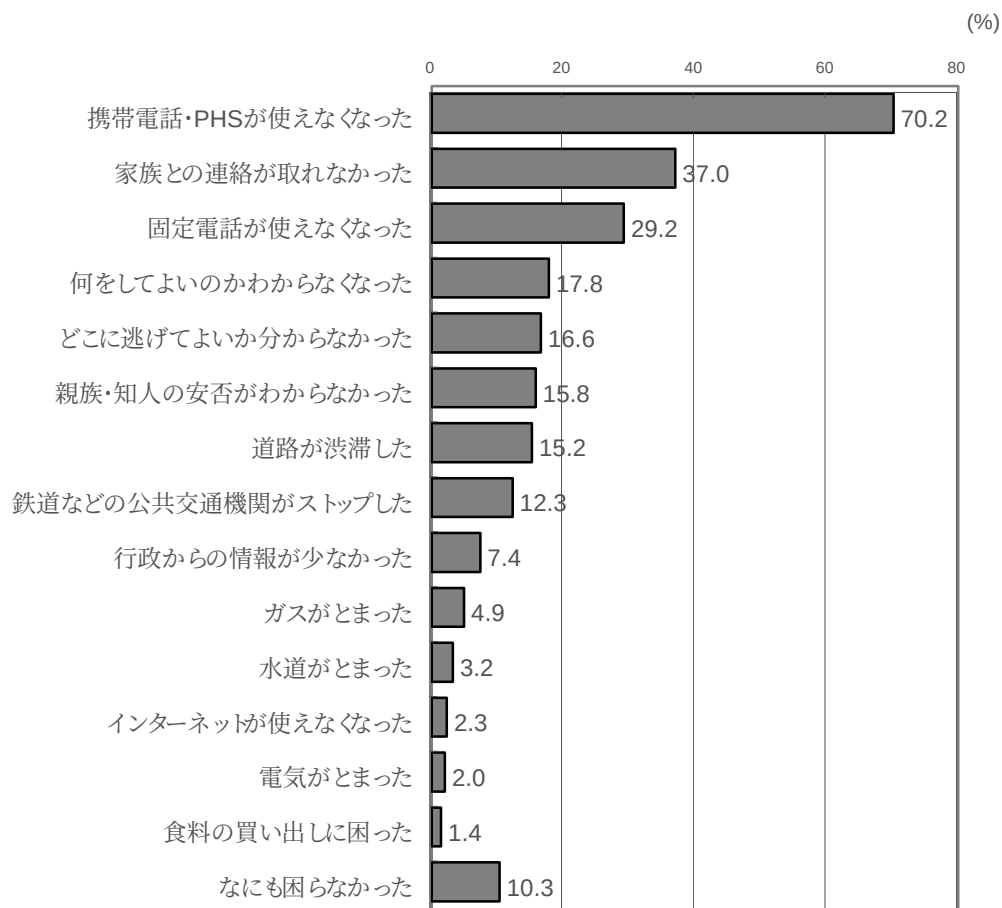
n=349

3 地震当日、困ったこと

携帯電話・PHS」家族との連絡」など通信手段が上位

地震当日困ったこととしては、携帯電話・PHSが使えなくなった」が70.2%と最も高く7割を占めている。次いで「家族との連絡が取れなかった」が37.0%、「固定電話が使えなくなった」が29.2%と続いている。通信手段がなかったことが上位にあがっている。

地震当日、あなたにとって困ったことは何ですか。（いくつでもチェック）



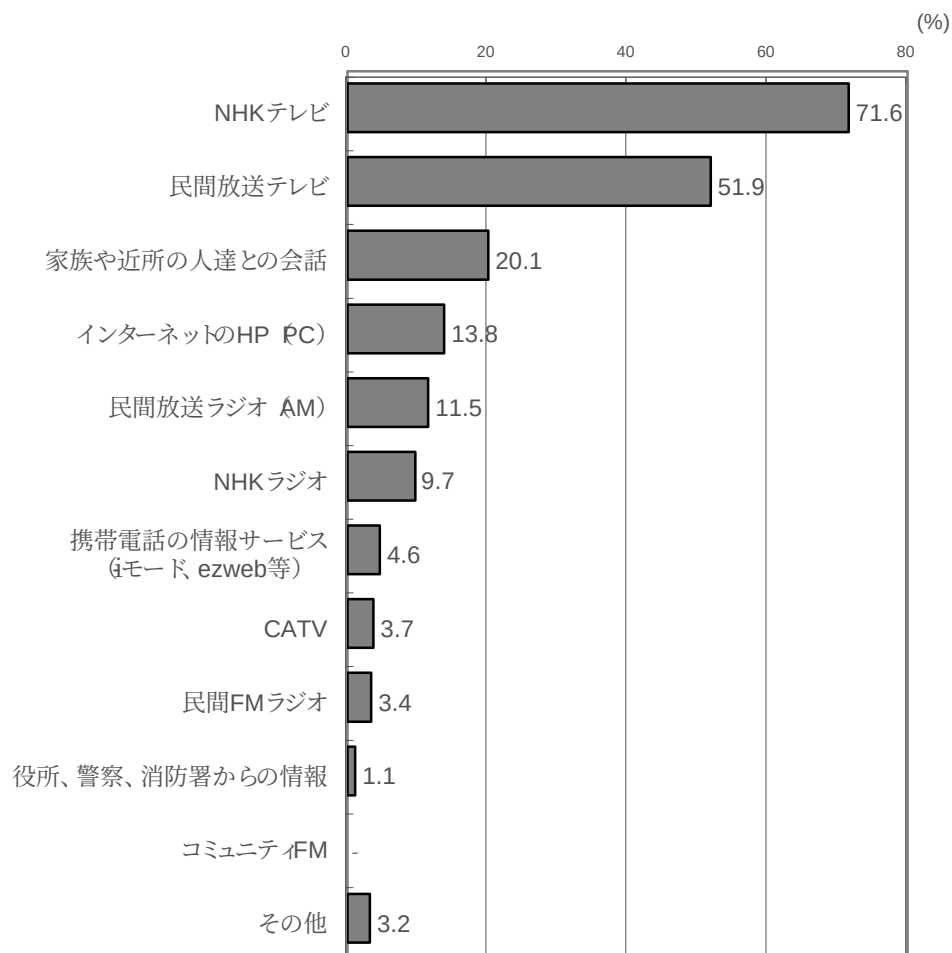
n=349

4 地震直後の情報源と情報内容のニーズ

「NHKテレビ」が7割強、民間放送テレビも過半数

地震後の情報入手経路は、「NHKテレビ」が71.6%と最も高く7割強、次いで「民間放送テレビ」が51.9%と過半数を占めており、テレビが上位にあがっている。

地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。(いくつでもチェック)

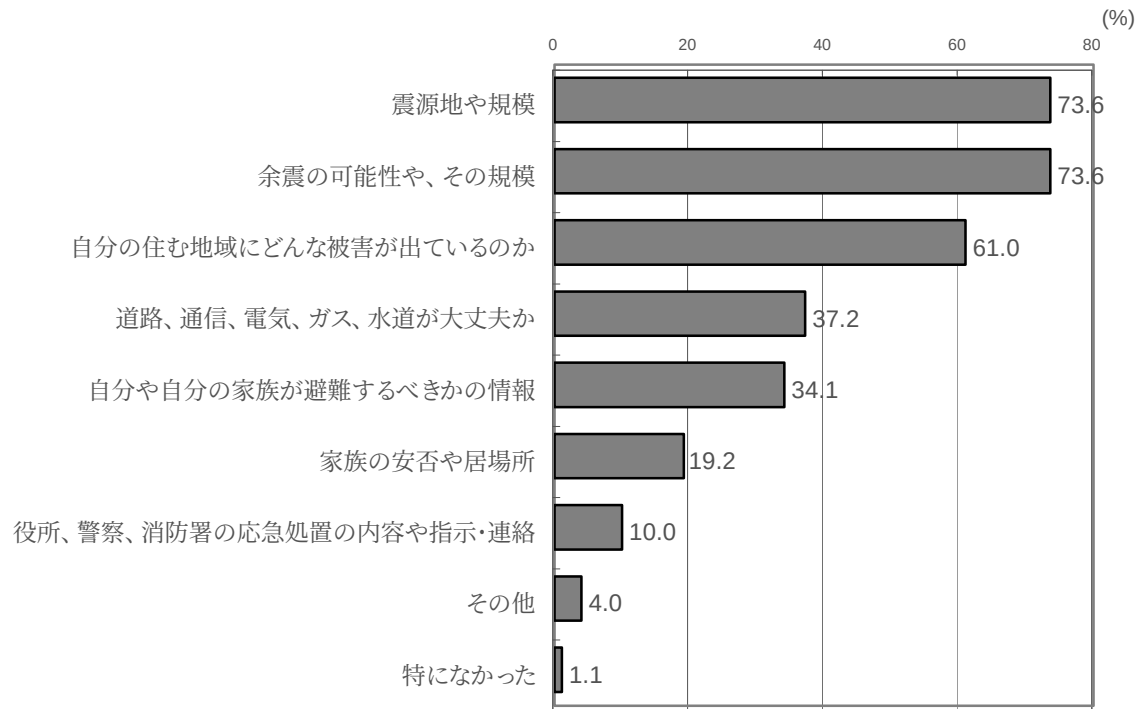


n=349

震源地や規模」余震可能性や規模」が7割強

地震直後に知りたかった情報内容は、「震源地や規模」と「余震の可能性や、その規模」の2つがともに73.6%と最も高く7割強を占め、次いで「自分の住む地域にどんな被害が出ているのか」が61.0%と6割強となっている。

地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。(いくつでもチェック)



n=349

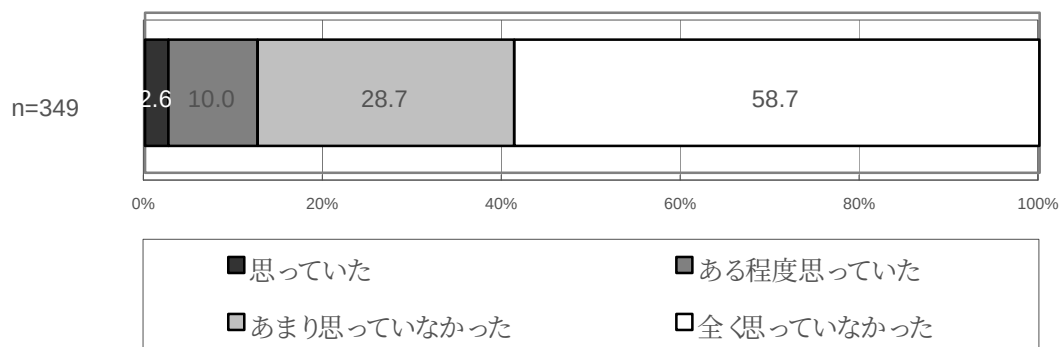
5 地震に対する意識

大地震が起こると思っていた人が9割弱

今回のような九州地方における大地震が起こる可能性については、全く思っていなかった」が58.7%と最も高く6割弱を占めている。次いで「あまり思っていなかった」が28.7%と3割弱となっており、これら両者を合せた「思っていなかった（計）」では9割弱（87.4%）となる。

一方、「思っていた」はわずか2.6%である。

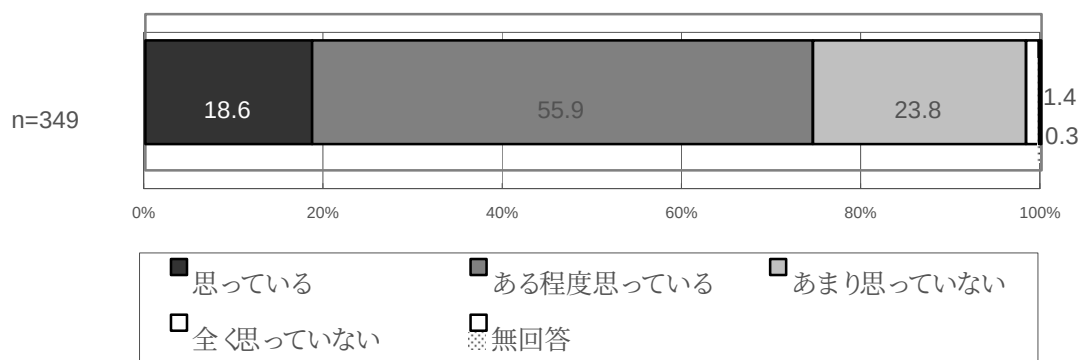
あなたは、これまで、この地域で今回の「福岡県西方沖の地震」のような大きな地震が起こると思っていたか。



大地震が将来起こると思っている人が7割台半ば

将来起こる可能性については、「ある程度思っている」が55.9%と最も高く5割台半ばを占め、「思っている」(18.6%)と合わせると7割台半ばとなる。

あなたは、将来、この地域で今回の「福岡県西方沖の地震」のような大きな地震が起こると思いますか。



6 地域の安全性

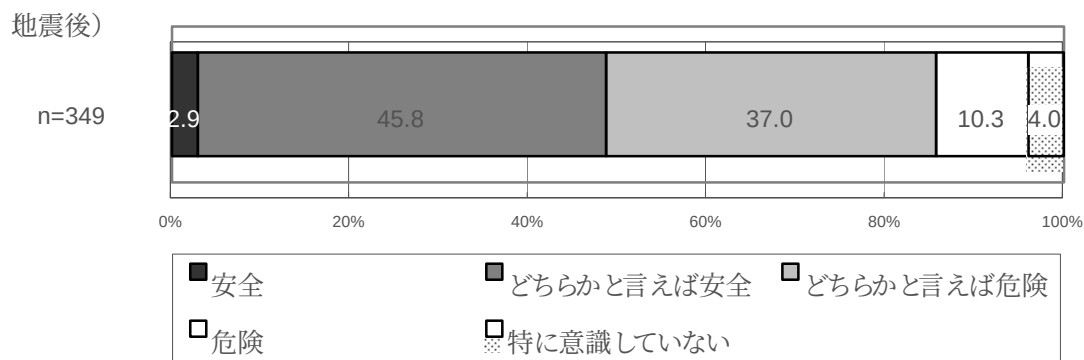
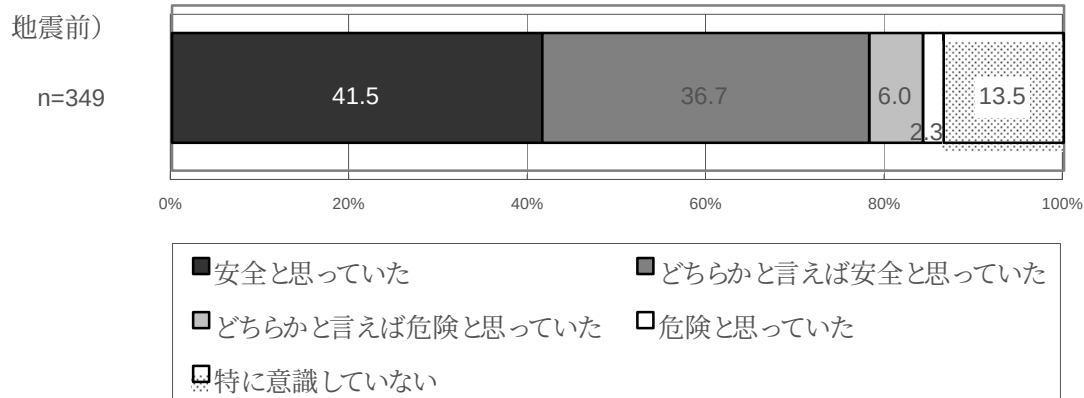
地域が安全と思う人は、地震前で4割強、地震後ではわずか2.9%

今回の地震前後では、回答者居住地域の地震に対する安全性の意識に変化がみられた。

地震前の意識としては、「安全と思っていた」が41.5%と最も高く4割強、「どちらかと言えば安全と思っていた」が36.7%と次いで高く3割台半ばを占めており、両者を合わせた『安全（計）』では8割弱にのぼる。一方、「特に意識していない」は13.5%と1割強となっている。

地震後の意識としては、「安全」がわずか2.9%となっており、地震前に比べると39ポイントの減少である。一方、「危険」が10.3%、「どちらかと言えば危険」が37.0%となっており、両者を合わせた『危険（計）』は5割弱を占めている。

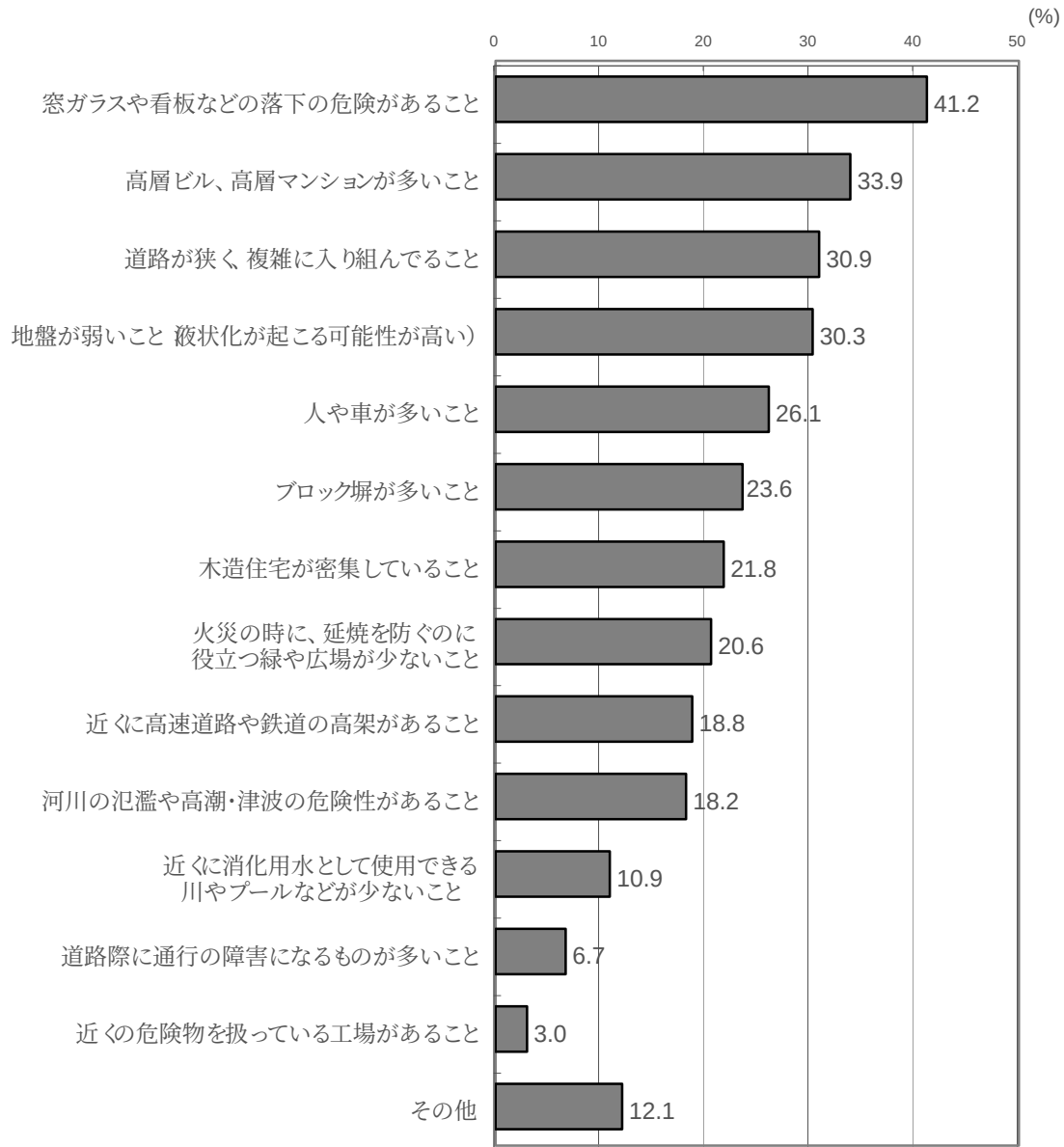
あなたの住んでいる地域は、地震に対して安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。
地震前と地震後、それぞれひとつずつチェック)



窓ガラスや看板などの落下物の危険」が4割強

地域の危険な点としては、「窓ガラスや看板などの落下の危険があること」が41.2%と最も高く4割強を占めている。次いで 高層ビル、高層マンションが多いこと」が33.9%、道路が狭く、複雑に入り組んでること」が30.9%、地盤が弱いこと」が30.3%と3割台で続いている。

この地域はどのような点が危険だと思いますか。③つまでチェック)



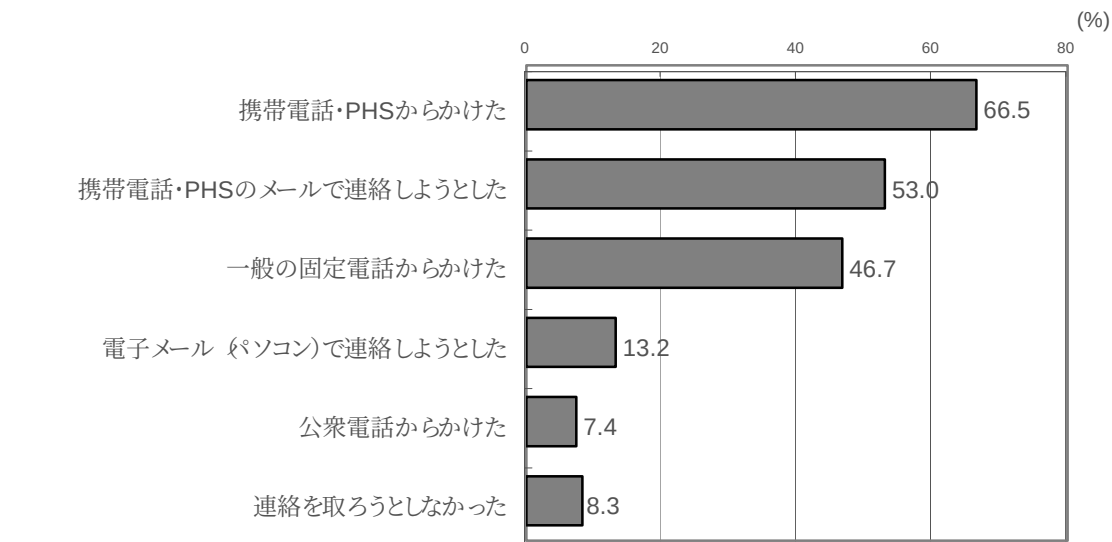
n=165

7 通信手段

携帯電話・PHS」が6割台半ば、携帯電話・PHSのメール」も過半数

地震当日連絡を取ろうとした通信手段は、携帯電話・PHSからかけた」が66.5%と最も高く3人に2人の割合となっている。次いで 携帯電話・PHSのメールで連絡しようとした」が53.0%と過半数、「一般の固定電話からかけた」が46.7%と4割台半ばとなっている。

地震当日、あなたは誰かに連絡を取ろうとしましたか。(いくつでもチェック)

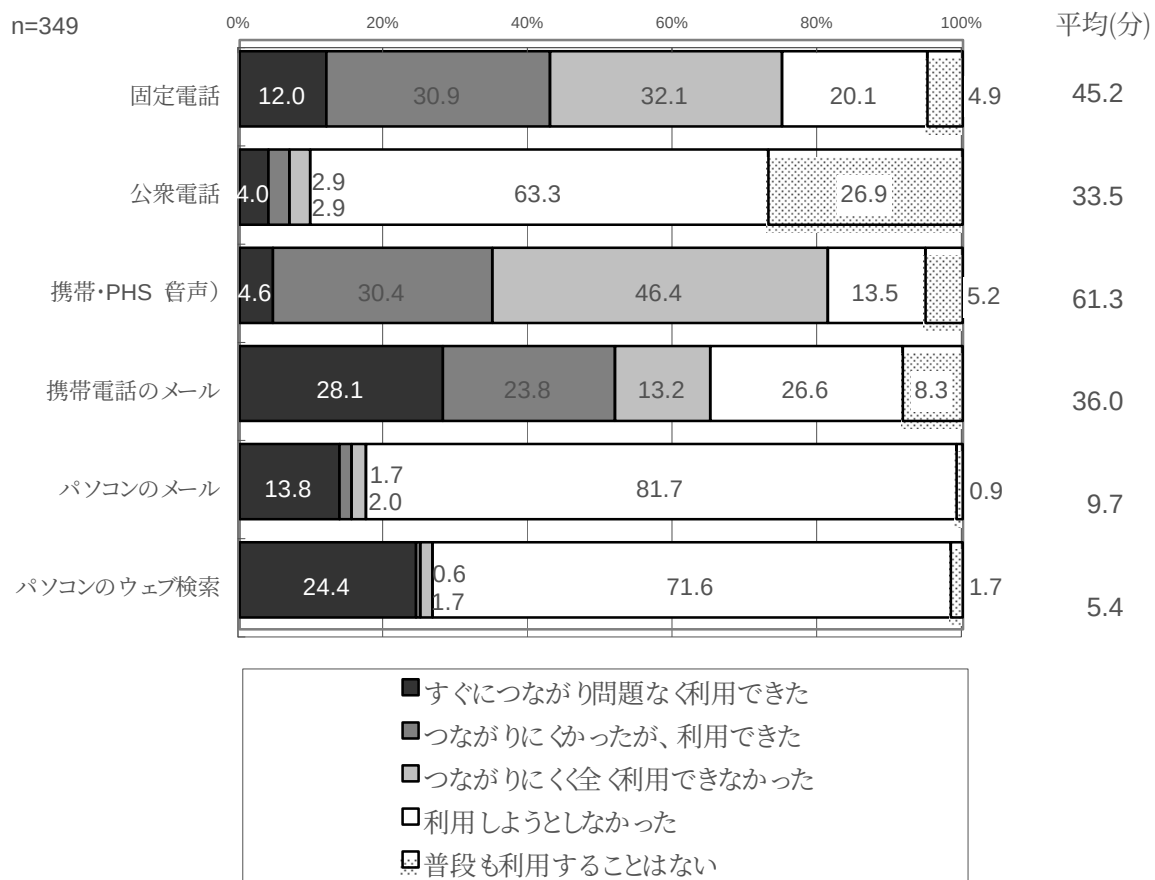


n=349

「すぐつながり問題なく利用できた」が携帯電話のメールで3割弱

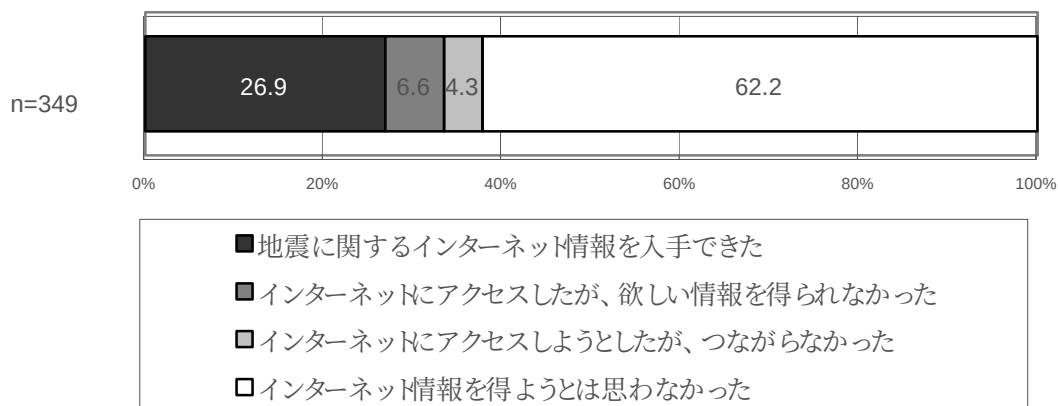
地震直後の通信手段のつながり具合については、「すぐつながり問題なく利用できた」は 携帯電話のメール]で28.1%と3割弱を占めている。また、「利用できた 計)』(「すぐつながり問題なく利用できた」 「つながりにくかったが、利用できた」の合計)でみると、携帯電話のメール]で51.9%と過半数を占め、固定電話]で42.9%と4割強となっている。しかし、つながるまでにかかった時間の平均でみると、携帯電話のメール]で36.0分、携帯電話・PHS 音声)]では1時間強 (61.3分)となっている。利用者の割合は低いが、インターネット系 (メール、ウェブ検索)はほとんど問題なかったようである。

地震直後 (2～3時間以内)にあなたが利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか。 (それぞれひとつずつ) また、それぞれの通信手段を利用し始めてから、つながった時間を分単位で具体的にお答えください。



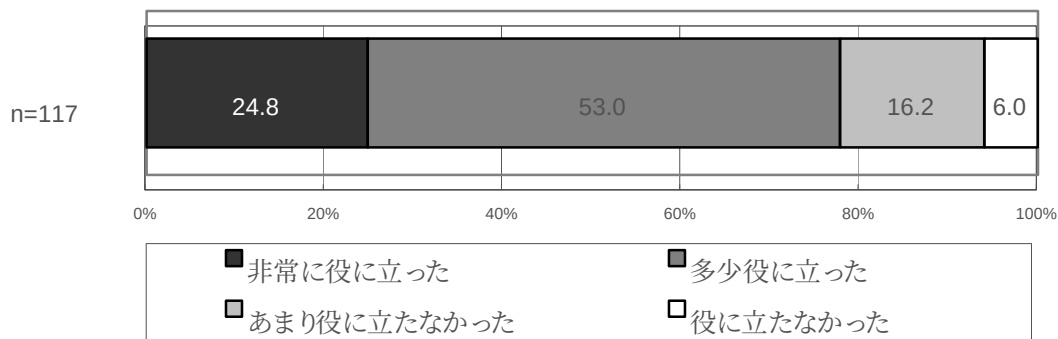
インターネットからの情報入手については、地震に関するインターネット情報を入手できた」が26.9%と4人に1人の割合となっており、一方、「インターネット情報を得ようと思わなかった」が62.2%と6割強を占めている。

インターネット（携帯電話・PHS含む）から地震に関する情報を入手しましたか。



インターネットから入手した情報の有用性については、非常に役に立った」が24.8%と4人に1人、多少役に立った」が53.0%と過半数を占め、両者を合わせた「役に立った（計）」は77.8%と8割弱となっている。

その情報は役に立ちましたか。

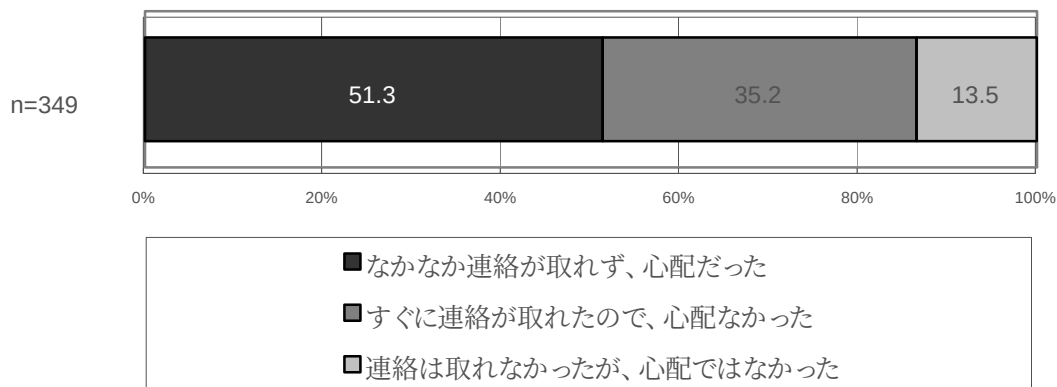


8 災害用伝言ダイヤル 171)

なかなか連絡が取れず心配」が過半数

地震当日の家族などの安否の心配については、「なかなか連絡が取れず、心配だった」が51.3%と過半数を占めている。また、「すぐ連絡が取れたので、心配なかった」が35.2%と3割台半ばとなっている。

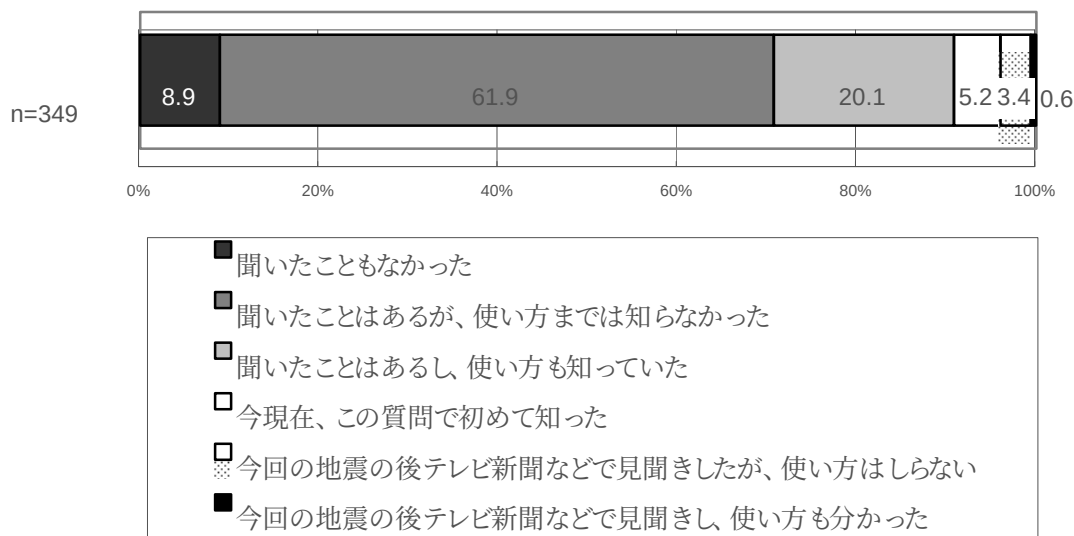
地震当日、家族や知人と連絡が取れず、安否が心配でしたか。



地震前の認知は8割強

災害用伝言ダイヤル「171」の認知については、「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」が61.9%と最も高く6割強を占めている。一方、「聞いたことはあるし、使い方も知っていた」は20.1%と2割となっている。

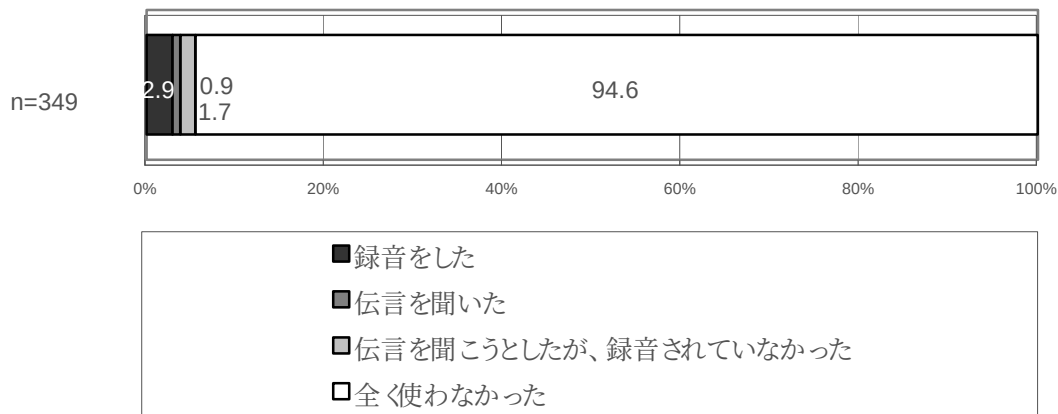
地震当日、あなたは、災害時に電話が込みあって使えない時に安否を伝えることができる 災害用伝言ダイヤル「171」を知っていましたか。



使わなかった」が9割台半ば

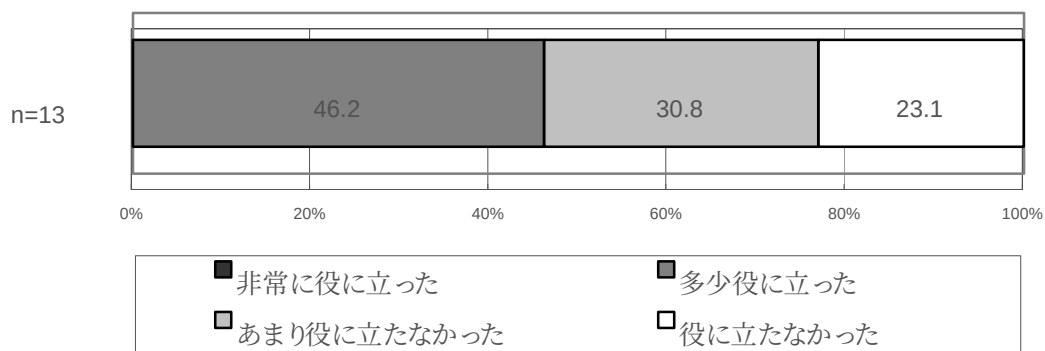
今回の地震における 災害用伝言ダイヤル 〔71〕の利用状況としては、利用した 計)』(録音した)2.9%、伝言を聞いた)0.9%、伝言を聞こうとしたが、録音されていなかった)1.7%の合計)はわずか5.5%となっており、全く使わなかった)が94.6%と大半を占めている。

あなたは、今回 災害用伝言ダイヤル 〔71〕を使いましたか。



有用性については、多少役に立った)が46.2%と4割台半ばを占めている。
(回答者数が少ないため参考にとどめる。)

災害用伝言ダイヤル 〔71〕は役に立ちましたか。

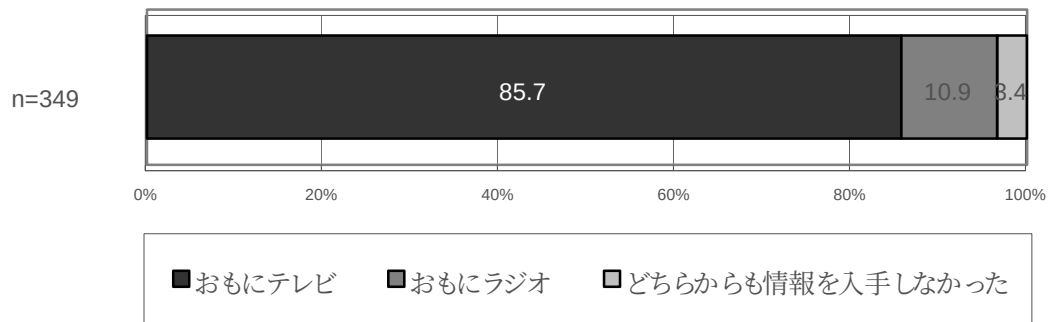


9 テレビ・ラジオからの情報入手

「おもにテレビ」が8割台半ば

地震直後の地震に関する情報源としては、「おもにテレビ」が85.7%と8割台半ばを占めており、「おもにラジオ」は10.9%となっている。

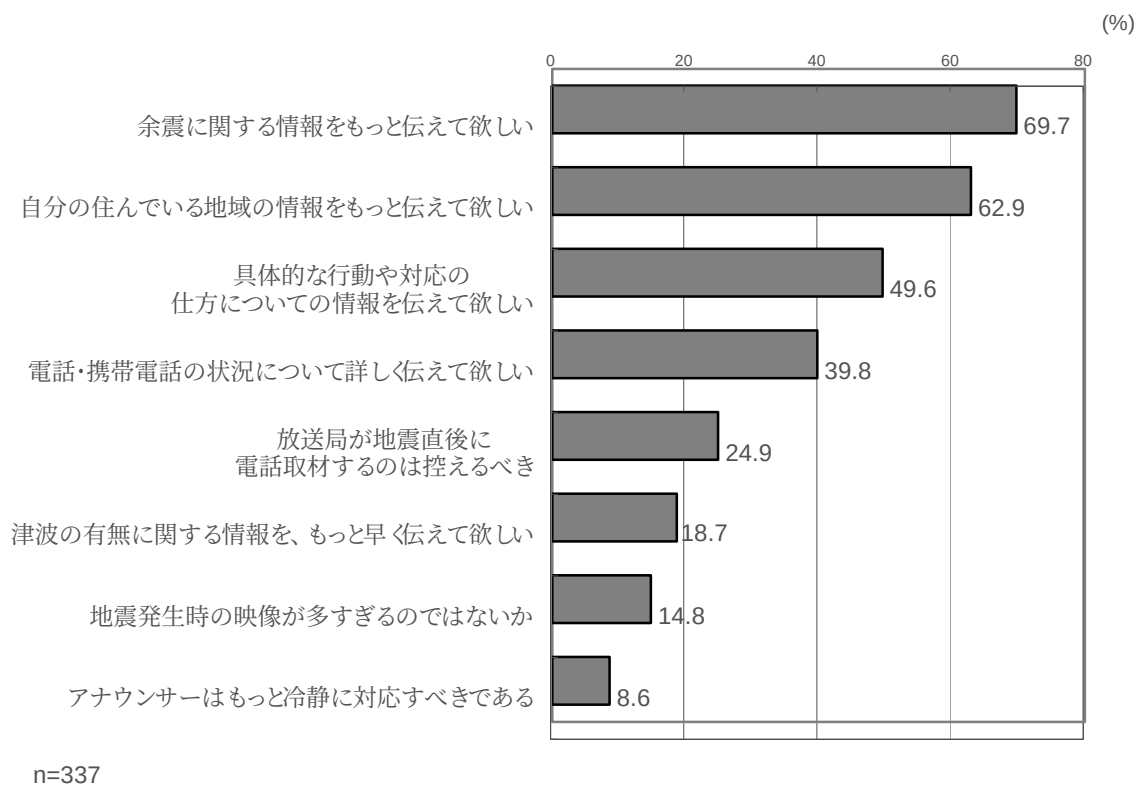
地震の直後、地震に関する情報源はおもにテレビでしたか、それともラジオでしたか。



「余震の情報」が7割弱、 「地域の情報」が6割強

テレビ・ラジオからの情報について、「余震に関する情報をもっと伝えて欲しい」が69.7%と最も高く7割弱を占め、次いで「自分の住んでいる地域の情報をもっと伝えて欲しい」が62.9%と6割強となっている。「具体的な行動や対応の仕方についての情報を伝えて欲しい」が49.6%と5割弱を占めている。

テレビ・ラジオからの情報を、どのように感じましたか。(いくつでもチェック)

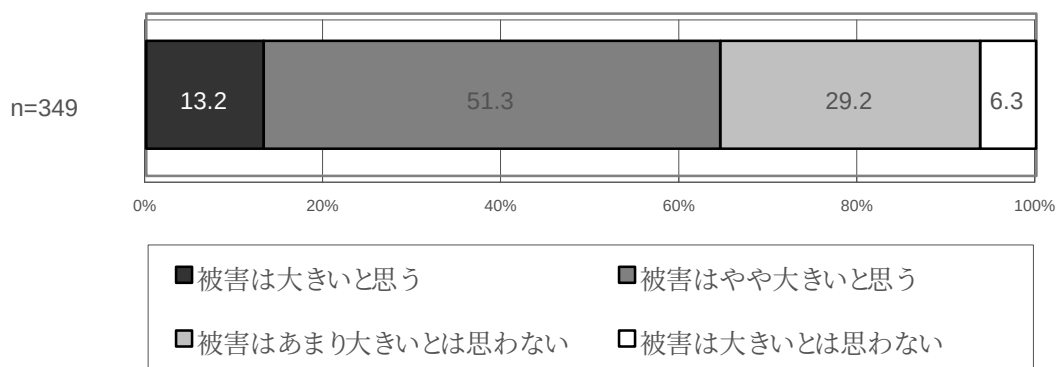


10 被害状況

被害は大きいと思う人が6割台半ば

今回の地震については、「被害は大きいと思う」が13.2%と1割強で、「被害はやや大きいと思う」の51.3%を合すると「大きいと思う(計)」は64.5%と6割台半ばとなっている。また、「被害はあまり大きいとは思わない」は29.2%と3割弱となっている。

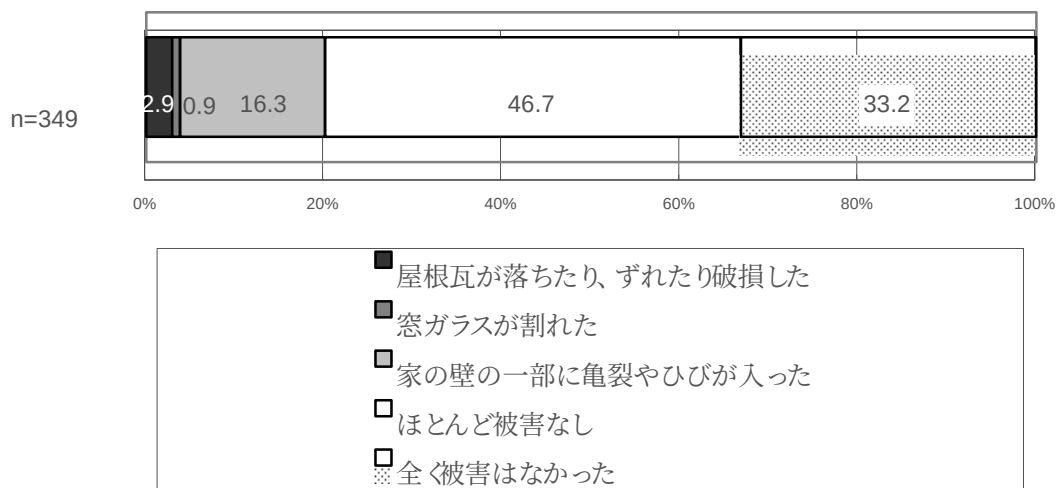
今回の地震の被害についてどう思いますか。



自宅の被害がなかった人は8割弱

自宅の被害については、「ほとんど被害なし」が46.7%と4割台半ば、「全く被害はなかった」が33.2%と3割強を占めている。一方、「家の壁の一部に亀裂やひびが入った」など何らかの被害を受けた人が2割 (20.1%) となっている。

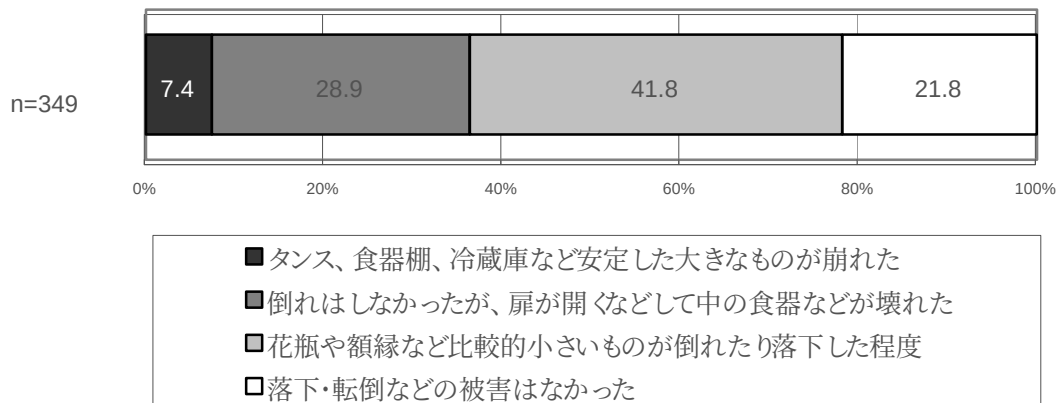
お宅では家屋 (建物) に被害がありましたか。



転倒や落下」が4割強

家具など家の中の状況としては、花瓶や額縁など比較的小さいものが倒れたり落下した程度」が41.8%と最も高く4割強を占める。一方、落下・転倒などの被害はなかった」は21.8%と2割強となっている。

では家具などの家の中はどのような状況でしたか。



11 地震への備え

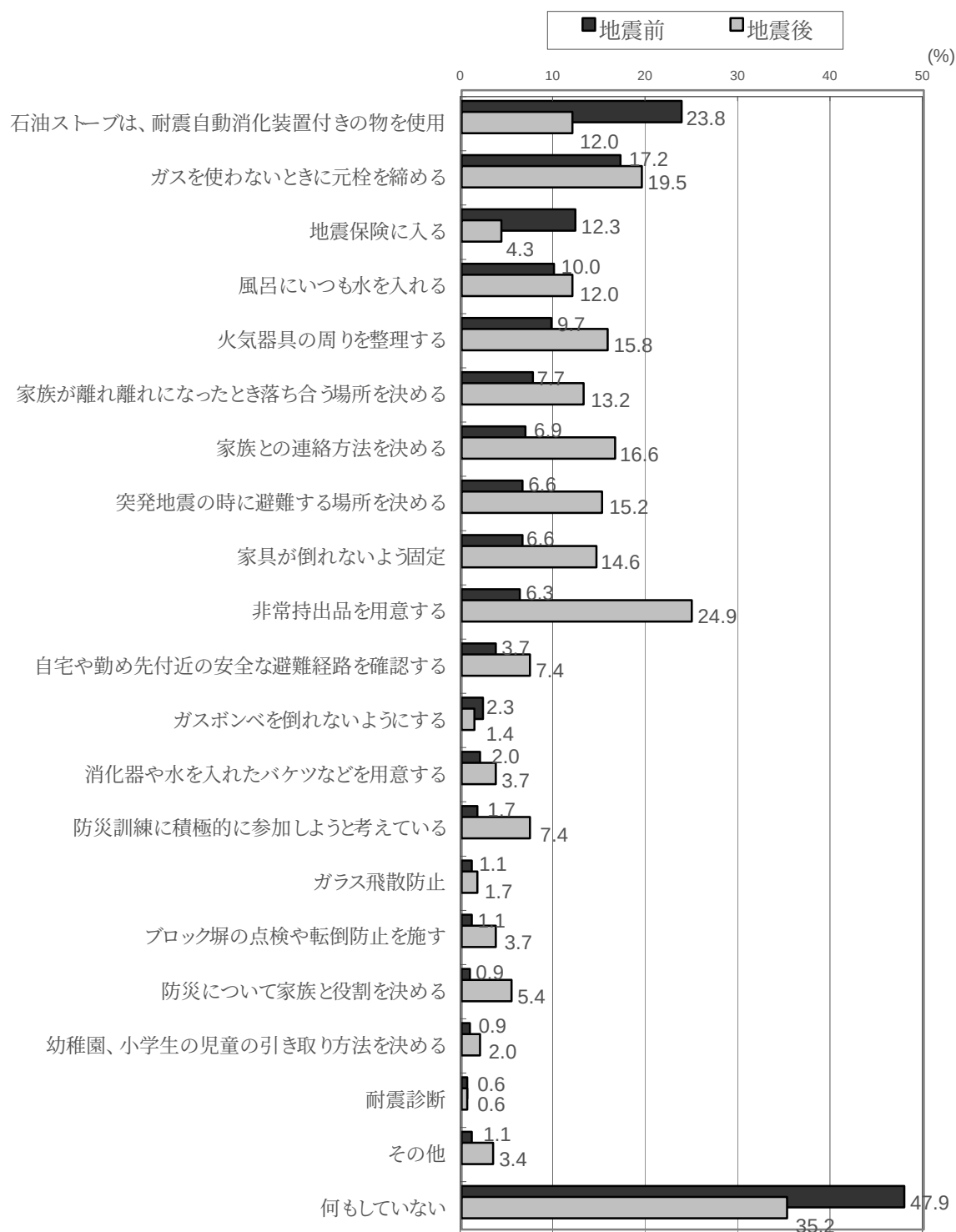
何もしていない」が、地震前では5割弱、地震後でも3割台半ば

地震の前後で行っていた地震対策についてきいた。

地震前では、「何もしていない」が47.9%と最も高く5割弱を占めている。

一方、地震後では、「非常持出品を用意する」が24.9%と最も高く4人に1人となっており、地震前と比べると約19ポイント上昇している。同様に「家族との連絡方法を決める」が16.6%となっており、約10ポイントの上昇である。なお、「何もしていない」は35.2%と3割台半ばを占めている。

次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものはありますか。地震前と地震後、それぞれいくつでもチェック)

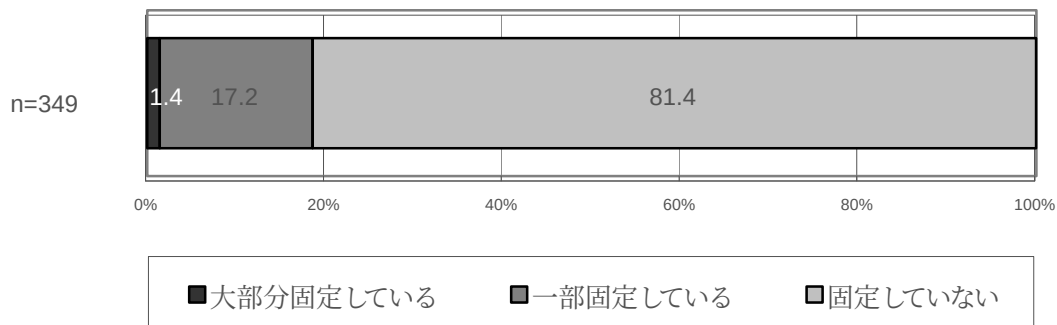


n=349

家具を固定している人は2割弱

家具の固定については、『固定している 割合』(大部分固定している1.4%、一部固定している17.2%の合計)がわずかに2割弱となっている。

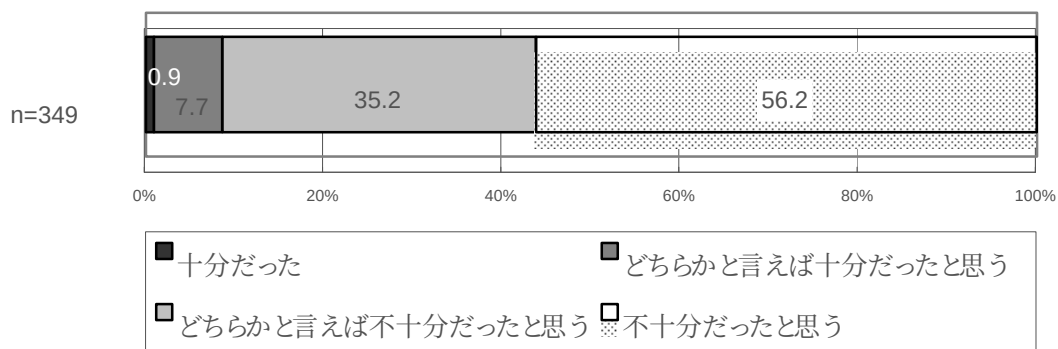
お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。



備えが不十分だったと思う人が9割強

自宅の地震などへの備えを評価してもらうと、『不十分だったと思う』が56.2%と最も高く5割台半ばを占めている。『どちらかと言えば不十分だったと思う』も35.2%と次いで高く、両者を合わせると91.4%と9割強となる。

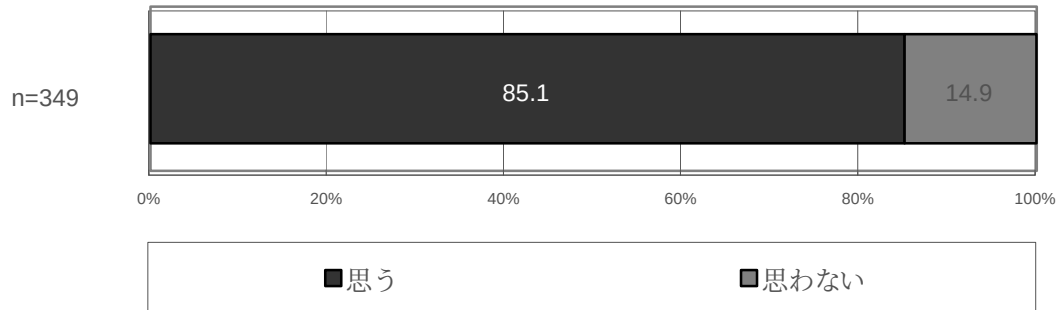
お宅の地震などへの備えは十分だったと思いますか。



防災の準備をしようと思う人が8割台半ば

今後の防災準備については、準備しようと思うが85.1%と8割台半ばを占めている。

今回の地震を通じて、今後、防災の準備をしようと思いますか。



V 調査票 (単純集計結果)

V 調査票 単純集計結果)

※ 特に指定のない場合、数字は構成比 (%)

福岡県西方沖の地震に関するアンケート調査

今回のアンケートは、福岡市内にお住まいの方にお伺いいたします。

F1. あなたの性別と年齢は。

				n=349)	
男性	20代	11.2	女性	20代	15.8
	30代	10.9		30代	15.5
	40代	8.6		40代	12.3
	50代	10.0		50代	7.2
	60代以上	6.6		60代以上	2.0

F2. あなたの職業は。

	n=349)
自営業	14.9
家族従業 (家事手伝い)	1.1
勤め (全日)	43.8
勤め (パートタイム)	11.7
無職の主婦	15.2
学生	5.2
無職	8.0

F4. あなたのお宅の家族形態を教えてください。

	n=349)
単身	25.5
それ以外	74.5

3月20日 (日)10時53分頃、福岡県西方沖を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生しました。

Q1. 地震発生時、あなたはどこにいましたか。

	n=349)
自宅にいた	64.5
会社・学校にいた	7.2
上記 (自宅・会社・学校) 以外の建物の中にいた	9.7
建物の外にいた	6.0
車・バイクで走っていた	4.9
電車やバスなどに乗っていた	0.6
その他 (具体的に)	7.2

Q2. 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。最初にしたものから順に3つまで)

Q1(349)	Q2sq1. 1番目)	Q2sq2. 2番目)	Q2sq3. 3番目)
じっと様子をみていた	36.4	19.2	11.7
歩けなかった 動けなかった)	18.3	8.6	4.0
火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした	2.6	8.3	4.6
家具や壊れ物を押さえたりした	5.7	6.9	4.6
安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	4.0	6.3	2.6
頑丈なものにつかまって身を支えた	4.9	8.0	3.7
子供や老人、病人などを保護した	4.9	3.4	3.2
戸、窓などを開けた	1.4	3.2	5.7
家や建物の外に飛び出した	2.3	2.0	4.3
建物の中に飛び込んだ	0.3	0.6	0.3
安全な場所に避難した	1.1	2.3	6.0
車 バイクを止めた	3.4	-	-
まわりの人の安全を確かめようとした	2.6	12.0	16.9
無我夢中でおぼえていない	0.6	0.6	2.3
その他 具体的に)	5.7	5.2	9.2
何もなかった	5.7	13.5	20.9

Q3.地震当日、あなたにとって困ったことは何ですか。 (いくつでもチェック)

Q3sq1. 1番目)	Q3sq2. 2番目)	Q3sq3. 3番目)
どこに逃げてよいか分からなかった	16.6	
行政からの情報が少なかった	7.4	
鉄道などの公共交通機関がストップした	12.3	
道路が渋滞した	15.2	
電気がとまった	2.0	
ガスがとまった	4.9	
水道がとまった	3.2	
固定電話が使えなかった	29.2	
携帯電話 PHSが使えなかった	70.2	
インターネットが使えなかった	2.3	
食料の買い出しに困った	1.4	
何をしてもいいのかわからなかった	17.8	
家族との連絡が取れなかった	37.0	
親戚 知人の安否がわからなかった	15.8	
何も困らなかった	10.3	

Q4.地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。 (いくつでもチェック)

Q4sq1. 1番目)	Q4sq2. 2番目)	Q4sq3. 3番目)
NHKテレビ	71.6	
NHKラジオ	9.7	
民間放送テレビ	51.9	
民間放送ラジオ (AM)	11.5	
民間FMラジオ	3.4	
コミュニティFM放送	-	
CATV	3.7	
インターネットのホームページ (パソコン) 具体的に)	13.8	
携帯電話の情報サービス (モード、Ezwebなど)	4.6	
家族や近所の人たちとの会話	20.1	
役所、警察、消防署からの情報	1.1	
その他 具体的に)	3.2	

Q5.地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。(いくつでもチェック)

(n=349)

今回の地震についての震源地や規模などの情報	73.6
今後の余震の可能性や、その規模	73.6
自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報	34.1
自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報	61.0
家に戻らない家族の安否や居場所	19.2
役所、警察、消防署の応急救済の内容や指示・連絡	10.0
道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	37.2
その他	4.0
特になかった	1.1

Q6.あなたは、これまで、この地域で今回の「福岡県西方沖の地震」のような大きな地震が起こると思っていましたか。

(n=349)

思っていた	2.6
ある程度思っていた	10.0
あまり思っていなかった	28.7
まったく思っていなかった	58.7

Q7.あなたは、将来、この地域で今回の「福岡県西方沖の地震」のような大きな地震が起こると思いますか。

(n=349)

思っている	18.6
ある程度思っている	55.9
あまり思っていない	23.8
まったく思っていない	1.4
無回答	0.3

Q8. あなたの住んでいる地域は、地震に対して安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。

地震前と地震後、それぞれひとつずつチェック)

Q8sq1. 地震前)

(n=349)

安全と思っていた	41.5
どちらかといえば安全と思っていた	36.7
どちらかといえば危険と思っていた	6.0
危険と思っていた	2.3
特に意識していなかった	13.5

Q8sq2. 地震後)

(n=349)

安全	2.9
どちらかといえば安全	45.8
どちらかといえば危険	37.0
危険	10.3
特に意識していない	4.0

Q8a. この地域はどのような点が危険だと思いますか。(3つまでチェック)

(n=165)

木造住宅が密集していること	21.8
ブロック塀が多いこと	23.6
道路が狭く、複雑に入り組んでいること	30.9
道路際に通行の障害となるものが多いこと	6.7
窓ガラスや看板などの落下の危険があること	41.2
近くに危険物を扱っている工場があること	3.0
地盤が弱いこと 液状化が起こる可能性が高い	30.3
河川の氾濫や高潮・津波の危険性があること	18.2
火災の時に、延焼を防ぐのに役立つ緑や広場が少ないこと	20.6
近くに消火用水として使用できる川やプールなどがないこと	10.9
高層ビル、高層マンションが多いこと	33.9
人や車が多いこと	26.1
近くに高速道路や鉄道の高架があること	18.8
その他(具体的に)	12.1

Q9.何か困ったことはありましたか。どんなことでも結構です。ご自由にお書きください。

Q10.地震当日、あなたは誰かに連絡を取ろうとしましたか。(いくつでもチェック)

(n=349)

一般の固定電話からかけた	46.7
公衆電話からかけた	7.4
携帯電話・PHSからかけた	66.5
携帯電話・PHSのメールで連絡しようとした	53.0
電子メール(パソコン)で連絡しようとした	13.2
連絡をとろうとしなかった	8.3

Q11.地震直後(2~3時間以内)にあなたが利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか(それぞれひとつずつ)。また、それぞれの通信手段を利用し始めてから、つながった時間を分単位で具体的にお答えください。

(n=349)

	すぐにつながり問題なく利用できた	つながりにくかったが、利用できた	つながりにくく全く利用できなかった	利用しようとしなかった	普段も利用することはない	つながるまでの所要時間(分)(平均)
Q11sq1. 固定電話)	12.0	30.9	32.1	20.1	4.9	45.2
Q11sq2. 公衆電話)	4.0	2.9	2.9	63.3	26.9	33.5
Q11sq3. 携帯電話・PHS(音声))	4.6	30.4	46.4	13.5	5.2	61.3
Q11sq4. 携帯電話のメール)	28.1	23.8	13.2	26.6	8.3	36.0
Q11sq5. (パソコンのメール)	13.8	1.7	2.0	81.7	0.9	9.7
Q11sq6. (パソコンのウェブ検索)	24.4	0.6	1.7	71.6	1.7	5.4

Q12.インターネット(携帯電話・PHS含む)から地震に関する情報を入手しましたか。

(n=349)

地震に関するインターネット情報を入手できた	26.9
インターネットにアクセスしたが、欲しい情報を得られなかった	6.6
インターネットにアクセスしようとしたが、つながらなかった	4.3
インターネット情報を得ようと思わなかった	62.2

Q13.その情報は役に立ちましたか。

(n=117)

非常に役に立った	24.8
多少役に立った	53.0
あまり役に立たなかった	16.2
役に立たなかった	6.0

Q14.地震当日、家族や知人と連絡が取れず、安否が心配でしたか。

(n=349)

なかなか連絡が取れず、心配だった	51.3
すぐ連絡が取れたので、心配なかった	35.2
連絡は取れなかったが、心配ではなかった	13.5

Q15.地震当日、あなたは、災害時に電話が込みあって使えない時に安否を伝えることができる「災害用伝言ダイヤル(171)」を知っていましたか。

(n=349)

聞いたこともなかった	8.9
聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった	61.9
聞いたことはあるし、使い方も知っていた	20.1
今現在、この質問で初めて知った	5.2
今回の地震の後、テレビ・新聞などで見聞きしたが、使い方までは知らなかった	3.4
今回の地震の後、テレビ・新聞などで見聞きして、使い方も分かった	0.6

Q15sq1.あなたは、今回「災害用伝言ダイヤル 171」を使いましたか。

（n=349）

録音した	2.9
伝言を聞いた	0.9
伝言を聞こうとしたが、録音がなかった	1.7
全く使わなかった	94.6

Q15sq2.「災害用伝言ダイヤル 171」は役に立ちましたか。

（n=13）

非常に役に立った	-
多少役に立った	46.2
あまり役に立たなかった	30.8
役に立たなかった	23.1

Q16.地震の直後、地震に関する情報源はおもにテレビでしたか、それともラジオでしたか。

（n=349）

おもにテレビ	85.7
おもにラジオ	10.9
どちらからも情報を入手しなかった	3.4

Q16sq1.テレビ・ラジオからの情報を、どのように感じましたか。（いくつでもチェック）

（n=337）

津波の有無に関する情報を、もっと早く伝えてほしい	18.7
具体的にどのような行動や対応をとればよいかという情報を、もっと伝えてほしい	49.6
情報を伝えるアナウンサーやキャスターは、もっと冷静に対応するべきである	8.6
自分の住んでいる地域の情報を、もっと多く伝えてほしい	62.9
電話・携帯電話の状況について、もっと詳しく伝えてほしい	39.8
放送局が、地震直後に被害のあった市町村役場や消防署などに電話取材をするのは、控えるべきである	24.9
地震発生時の映像が多すぎるのではないか	14.8
余震に関する情報を、もっと伝えてほしい	69.7

Q17.今回の地震の被害についてどう思いますか。

（n=349）

被害は大きいと思う	13.2
被害はやや大きいと思う	51.3
被害はあまり大きいとは思わない	29.2
被害は大きいとは思わない	6.3

Q18.今回の地震を通じて、今後、防災の準備をしようと思いますか。

（n=349）

思う	85.1
思わない	14.9

Q19.お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。

（n=349）

屋根瓦が落ちたり、ずれたり破損した	2.9
窓ガラスが割れた	0.9
家の壁の一部にひびや亀裂が入った	16.3
ほとんど被害はなかった	46.7
全く被害はなかった	33.2

Q20.では家具などの家の中はどのような状況でしたか。

（n=349）

タンス、食器棚、冷蔵庫、ステレオなど安定した大きなものが崩れた	7.4
倒れはしなかったが、扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた	28.9
花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり落下した程度	41.8
落下・転倒などの被害はなかった	21.8

Q21.お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。

(n=349)

大部分固定している	1.4
一部固定している	17.2
固定していない	81.4

Q22.次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものはありますか。

地震前と地震後、それぞれいくつでもチェック)

	Q22sq1. 地震前) (n=349)	Q22sq2. 地震後) (n=349)
防災について家族と役割を決めていた	0.9	5.4
家族との連絡方法を決めていた	6.9	16.6
突発地震の時に避難する場所を決めていた	6.6	15.2
家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めていた	7.7	13.2
自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認していた	3.7	7.4
ガスを使わないときに元栓を締めていた	17.2	19.5
火気器具のまわりを整理していた	9.7	15.8
石油ストーブは、耐震自動消化装置付の物を使用していた	23.8	12.0
風呂にいつも水を入れていた	10.0	12.0
消火器や水をいれたバケツなどを用意していた	2.0	3.7
幼稚園、小学生の児童の引取り方法を決めていた	0.9	2.0
ガラス飛散防止をしていた	1.1	1.7
ガスボンベを倒れないようにしていた	2.3	1.4
家具が倒れないように固定していた	6.6	14.6
ブロック塀の点検や転倒防止を施していた	1.1	3.7
防災訓練に積極的に参加していた	1.7	7.4
非常持出品を用意していた	6.3	24.9
耐震診断をした	0.6	0.6
地震保険に入っていた	12.3	4.3
その他	1.1	3.4
何もしていなかった	47.9	35.2

Q23.お宅の地震などへの備えは十分だったと思いますか。

(n=349)

十分だった	0.9
どちらかといえば十分だったと思う	7.7
どちらかといえば不十分だったと思う	35.2
不十分だったと思う	56.2

Q24.今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか (自由回答)。

VI 自由回答

VI 自由回答

Q1. 地震発生時、あなたはどこにいましたか。(その他)

性別	年齢	職業	自由記述
女性	20代	無職の主婦	実家にいた 志摩町)
女性	30代	勤め 全日)	北九州の実家
女性	30代	無職の主婦	スペースワールド
女性	40代	自営業	お寺の本堂
女性	20代	学生	県外の実家
男性	20代	学生	九重研修所
男性	30代	勤め 全日)	出張先 北九州)
女性	20代	勤め 全日)	他県
男性	30代	勤め 全日)	旅行中九州自動車道、人吉IC手前のSA
男性	50代	勤め 全日)	トラックの中で寝ていた
女性	40代	自営業	学校の校庭にいた
男性	30代	勤め 全日)	いちご狩り
女性	30代	勤め 全日)	複合型施設にいた
女性	30代	勤め 全日)	出張で広島に
女性	20代	無職の主婦	車に乗り込んだ時
女性	30代	勤め 全日)	学校のグラウンド
男性	60代以上	無職	県外にいた
女性	30代	無職の主婦	熊本の実家
男性	20代	学生	吉野家
男性	60代以上	無職	教会
男性	50代	自営業	自転車で走っていた
男性	20代	勤め 全日)	公園
男性	40代	勤め 全日)	ゴルフ場
女性	20代	無職の主婦	公園にいた
男性	60代以上	無職	歩いていた

Q2sq1. 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。1番目・その他)

性別	年齢	職業	自由記述
女性	40代	勤め (パートタイム)	飼っている猫を保護した
女性	30代	勤め 全日)	寝てて、物が落ちて来て目が覚めたので、今の現状を把握するのに必死だった
女性	30代	無職の主婦	カーテレビをみた
女性	30代	勤め 全日)	倒れてくる物がないか周りを確認した 座っていたので)
男性	50代	勤め 全日)	揺れがおさまるまで待った
女性	40代	家族従業 家事手伝い)	洋服を着替えようと移動した
男性	60代以上	無職	電話連絡
男性	20代	勤め 全日)	テレビで情報確認をした
男性	30代	勤め 全日)	外にいたので家に飛び込み家族を守った
女性	50代	勤め (パートタイム)	電話した
男性	60代以上	無職	電線を見ていた

Q2sq2. 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。2番目・その他)

性別	年齢	職業	自由記述
女性	30代	勤め 全日)	母の携帯に電話した
女性	30代	無職の主婦	電話
女性	50代	無職の主婦	寝ていた家族を起こした
女性	40代	自営業	貴重品を集めた
男性	50代	自営業	妻が恐ろし気でキャーキャー言っていたので、自分が居る安全と思われる場所に呼び込んだ。動かなかったなので、引っ張って移動させた。
女性	30代	無職の主婦	冷蔵庫の上の物を下ろした
女性	40代	無職の主婦	水槽の電源を止めた
女性	30代	無職の主婦	ラジオをつけた
男性	20代	学生	状況を把握できずパニック
男性	50代	自営業	地震の規模を確認しようとしていた
女性	20代	勤め (パートタイム)	何が起きたか分からずきょろきょろしていた
女性	20代	勤め (パートタイム)	貴重品を持って、ドアを開け放した
女性	50代	勤め 全日)	猫を探した
女性	20代	無職の主婦	自宅に戻る
男性	60代以上	無職	塀から離れた

Q2sq3. 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、とっさにどんなことができましたか。3番目・その他)

性別	年齢	職業	自由記述
男性	40代	勤め (全日)	食器等の様子を見た
女性	40代	勤め (パートタイム)	声をあげた
女性	30代	勤め (全日)	携帯が通じなかったので、パソコンと電源コード、携帯と充電器、通帳などの貴重品をリュックにまとめ、外の公衆電話に電話しに行った
女性	30代	無職の主婦	家に引き返した
女性	40代	無職の主婦	余震に備えた
女性	40代	勤め (パートタイム)	TVをつけた
女性	20代	無職	外の様子を確認した
女性	40代	勤め (全日)	非常持ち出し袋を準備した
男性	20代	勤め (全日)	その後急にひどい揺れになって、嫁を覆った (特に頭)。その途中周りを見回して、落下物がありえない状態の部屋であることを確認できて、地震が収まるのをじっとこらえていた
女性	30代	自営業	布団をかぶった
女性	30代	無職の主婦	実家に電話した
女性	30代	勤め (全日)	お客さんの避難誘導
女性	30代	勤め (パートタイム)	家にいる娘に携帯で連絡をした
男性	20代	学生	カウンターの下に隠れた
女性	20代	勤め (全日)	外の様子を見ていた
男性	60代以上	無職	テレビをおさえていた
女性	20代	勤め (全日)	外の状況を見た。
女性	20代	勤め (パートタイム)	自分の部屋から出て、外の様子を見た
男性	60代以上	無職	身の回りを点検した
男性	20代	学生	家族の様子を見に行った
女性	20代	無職の主婦	子供の無事を確認
女性	20代	無職の主婦	避難用の袋を用意した
女性	20代	無職の主婦	旦那と話した
男性	30代	自営業	異常が無いか確かめた
男性	50代	自営業	ペットを探した
男性	60代以上	無職	非常口を確認した
男性	20代	学生	蛍光灯が落ちてくる場所にいるかどうか確かめた
男性	60代以上	無職	電話をかけたが不通

Q4. 地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。(インターネットのホームページ (パソコン))

性別	年齢	職業	自由記述
女性	40代	自営業	Yahoo地震情報
男性	20代	勤め (パートタイム)	ヤフー
女性	20代	勤め (全日)	yahoo
女性	30代	家族従業 家事手伝い	YAHOO!地震情報
女性	40代	勤め (全日)	Hi-net
女性	50代	自営業	Hi-net高感度地震観測網
女性	30代	勤め (全日)	気象庁
女性	40代	勤め (全日)	yahoo
女性	30代	自営業	Yahoo!Japan
女性	40代	勤め (パートタイム)	気象庁
女性	40代	自営業	Yahoo 気象庁
男性	30代	勤め (全日)	YAHOO
男性	30代	勤め (全日)	yahoo
女性	30代	勤め (全日)	気象庁ホームページ
男性	20代	学生	気象庁 Yahoo
女性	40代	無職の主婦	ニュース欄で
男性	40代	勤め (全日)	NHK
女性	20代	学生	yahoo
女性	20代	無職の主婦	気象庁
男性	30代	勤め (全日)	JH、民放、新聞のHP
女性	30代	勤め (全日)	yahoo地震情報
女性	20代	無職	dion
男性	50代	自営業	情報は何もなかった。
男性	50代	勤め (全日)	マスコ関連のHP
男性	50代	勤め (全日)	気象庁
男性	40代	勤め (全日)	yahoo
女性	40代	勤め (パートタイム)	気象庁
女性	30代	自営業	Yahoo
男性	50代	勤め (全日)	ニュースサイト
男性	20代	勤め (全日)	yahoo
女性	30代	勤め (全日)	yahoo
女性	30代	勤め (パートタイム)	Yahoo
男性	30代	勤め (全日)	気象庁
男性	50代	自営業	福岡市のサイト
女性	40代	無職の主婦	地震予知センター
男性	30代	勤め (全日)	気象庁
女性	30代	勤め (全日)	Yahoo

Q4. 地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。(インターネットのホームページ (パソコン))

性別	年齢	職業	自由記述
男性	40代	勤め (パートタイム)	tenki.jp
男性	50代	自営業	気象庁
女性	30代	勤め (全日)	気象庁
女性	50代	勤め (全日)	YAHOO
男性	60代以上	無職	ヤフーのホームページから
女性	20代	無職の主婦	気象庁の地震情報
男性	30代	無職	yahoo
男性	20代	勤め (全日)	yahoo
女性	50代	勤め (パートタイム)	気象庁
男性	30代	勤め (全日)	気象庁 地震情報
男性	20代	学生	yahoo

Q4. 地震の後、災害の情報をどこから入手しましたか。(その他)

性別	年齢	職業	自由記述
女性	40代	勤め (パートタイム)	友人とのメール交換
男性	50代	自営業	携帯メールと、公衆電話発の子供達からの無事連絡を、受け取った。さらに母親 (佐世保在住) が、心配しているだろうから、公衆電話を探し、連絡を取った。JRの情報はテレビで聞けたが、西鉄の情報は、2時間半たってやっと、不通の情報を知った。それから、西鉄二日市駅にいと連絡をよこした三男高校生を迎えに出発した。西鉄の情報が全く無かった。主にNHKを見ていたからかも知れないけど。それから、171サービスに自分の家族は全員無事です。とのメッセージを携帯電話から入力してみた。後から1712+ 自宅固定電話番号をダイヤルしたら、自分の声の無事情報が聞こえた時は、携帯でも登録できたんだと、初めて知った
女性	50代	勤め (パートタイム)	娘が公衆電話からかけてきて
男性	30代	勤め (全日)	駅の放送
女性	30代	勤め (全日)	一緒にいた同僚の家族から
女性	40代	勤め (パートタイム)	お店
女性	50代	自営業	職員
男性	40代	勤め (全日)	ゴルフ仲間からの情報
男性	50代	勤め (全日)	主催者の説明
男性	20代	学生	友人からのメール
男性	60代以上	無職	携帯

Q8a. この地域はどのような点が危険だと思いますか。(その他)

性別	年齢	職業	自由記述
女性	40代	勤め (パートタイム)	すぐ近くに断層があるので
女性	20代	勤め (全日)	地震に対して備えが無い
女性	50代	自営業	給湯器の設置の仕方
男性	40代	勤め (全日)	地震に慣れていない
男性	30代	自営業	県政が有権者をないがしろにしている
女性	40代	無職	電線が何本もあってこれが切れたら大変だと思いました
女性	30代	勤め (全日)	ビルが築30年以上経っており、クラック (ひび割れ) があらゆる所にあり 崩れそうなのがする
女性	30代	勤め (全日)	住んでいるアパ ー が築30年以上たっているため強度が心配
女性	40代	無職の主婦	老人が多い
男性	30代	勤め (全日)	警固断層の周辺だから
女性	20代	無職	津波
男性	30代	無職	震度1でも体感3くらいに感じるくらいボロアパート
女性	40代	家族従業 家事手伝い	住んでいるビルの硝子にヒビが入った事
女性	40代	無職の主婦	福岡の中心となるけご断層が、直下型に通っていること
女性	30代	勤め (全日)	建物が古い
女性	60代以上	勤め (全日)	震災対策がなされていない構造物が多い
男性	20代	学生	福岡がどうというわけではなく、地震に白紙地帯はないんだという意味でいつ地震がおきてもおかしくない
女性	30代	無職の主婦	山が近くにある
男性	20代	学生	地震対策が十分でないこと
女性	20代	勤め (全日)	とにかく地震についての意識が普段から低いこと

Q9. 何か困ったことはありましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	20代	勤め (パートタイム)	余震が怖い
女性	20代	無職の主婦	電話が使えなかった事
女性	30代	無職の主婦	家族と連絡が取れなかった
女性	30代	勤め (全日)	タンスが倒れて部屋がぐちゃぐちゃになっていた
女性	40代	勤め (パートタイム)	家の状態のチェックをどこに頼んだらしてくれるのかわからないこと
女性	40代	勤め (全日)	次にもっとでかいのが来るかどうかを直後に報道してくれなかった
女性	30代	勤め (全日)	避難場所がわからなかった
女性	60代以上	無職の主婦	電話が通じない
女性	30代	勤め (パートタイム)	水が止まったこと、温水器のタンクとパイプが破損して、お湯が噴出したこと
女性	40代	勤め (パートタイム)	震災ゴミを無料で集荷してもらえるのはうれしいんですが、集荷までの猶予期間が短かったので全部出しきれませんでした。ひとり暮らしや共働きの家庭では片付けもままならないので、集合住宅の場合も個別で集荷してもらえたらいいと思いました
男性	40代	自営業	連絡手段が無い
女性	30代	無職の主婦	ガスや水道など使っていないのかわからなかった
女性	40代	無職の主婦	家族と連絡が取れなかった
女性	20代	勤め (全日)	片づけが大変だった
男性	30代	勤め (全日)	携帯電話が使えなかった事
女性	30代	勤め (全日)	温水器のパイプが折れて部屋が水浸しになった
女性	20代	勤め (全日)	電話が通じない
女性	20代	勤め (全日)	携帯が役に立たなかった
女性	20代	勤め (全日)	避難するべきかどうか
女性	20代	学生	部屋の片付け、割れ物
女性	40代	勤め (パートタイム)	連絡が取れない
女性	30代	家族従業 家事手伝い	地震保険に入っていないから家の修復ができない
男性	40代	勤め (全日)	家族との連絡が取りづらかったこと
女性	40代	勤め (全日)	携帯が全く使えず、公衆電話も探しても見あたらない
女性	20代	勤め (全日)	精神的に参った
男性	60代以上	勤め (パートタイム)	交通機関
女性	40代	無職の主婦	ガスメーターが開かなくなった為、ロック解除ができなかった
女性	50代	自営業	給湯器が傾き水道管を破って水浸しになった
男性	40代	勤め (全日)	どうすればいいかわからなかった
女性	40代	無職	家が古いので壊れた時に避難するのをいつどうしたら良いのか分からない
男性	30代	自営業	携帯が使えなかった事
女性	20代	学生	ドコモの携帯が全く繋がらず、友人と連絡が取れなくなった事
女性	30代	勤め (全日)	余震が怖くて眠れなかった
男性	30代	自営業	電話がなかなか通じなかった
女性	40代	無職の主婦	ガスの安全装置が働かず供給がストップされたが、復旧の仕方がわからなかった
男性	40代	自営業	屋根瓦が落ちてしまった
女性	30代	勤め (全日)	とにかく携帯が繋がらないのが困った！私は固定電話を持っていないので、家の中で唯一外部と連絡が取れる手段である。何かあった時にココから電話しようと思った公衆電話の位置を把握していたので、その後はすぐに両親と連絡が取れ、家族の無事を確認出来たが、もう少しどうかならないものか？
男性	40代	自営業	心の準備がなかったこと
女性	30代	無職の主婦	渋滞でトイレがいっぱいだった (高速道路)
男性	30代	自営業	携帯不通
男性	50代	勤め (全日)	携帯電話が通じないことが一番困った
女性	40代	自営業	電話が役に立たなかった
女性	50代	無職の主婦	一番被害が大きかった所だけの情報ばかりで、他の所の情報が少ない
女性	40代	勤め (全日)	携帯 固定電話が通じなかった
女性	30代	自営業	携帯電話が繋がらなかったこと
女性	40代	無職の主婦	ガスは直後から使えたが使っていないかどうかまよった

Q9. 何か困ったことはありましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	30代	無職の主婦	道路状況が解らなかった
女性	40代	勤め (パートタイム)	家族が一緒だから良かったが、バラバラだったら集合場所に困ったと思う
女性	40代	無職の主婦	津波の危険を知らせるアナウンスの音がはっきりしていないため逃げるかどうか迷った
女性	40代	勤め (パートタイム)	精神的ショック
男性	50代	勤め (全日)	ガスが止まって風呂に入れなかった
女性	30代	無職の主婦	電話が繋がらない
女性	40代	勤め (パートタイム)	子供と連絡が取れなかった。
女性	40代	勤め (全日)	電話が通じない
女性	40代	勤め (パートタイム)	IP電話同士が、無料にならなかった
男性	60代以上	無職	携帯繋がらず
女性	30代	無職の主婦	とにかく電話
女性	20代	勤め (全日)	どこに逃げてよいかわからない
女性	30代	無職の主婦	家に居るべきか、避難するべきかが分からなかった
女性	40代	自営業	掲示板などにデマの書き込みがあること
男性	30代	勤め (全日)	携帯が使えない
男性	30代	勤め (全日)	ごみの処理
女性	30代	無職	被害規模がばらばらで自宅地域はあまり被害はなかったのに、他地方の友人に想像以上に心配された
女性	30代	勤め (全日)	揺れに敏感になって、数日間船酔いのような状態が続いた
女性	20代	勤め (パートタイム)	家の修繕
女性	40代	無職の主婦	大切な用事で出かける予定が駄目になった
男性	20代	勤め (全日)	携帯電話が通じない
女性	30代	勤め (全日)	携帯が繋がらない
男性	40代	勤め (全日)	携帯電話が繋がらない
男性	20代	勤め (全日)	余震に不安を覚える
女性	20代	勤め (全日)	後片付け
男性	30代	勤め (全日)	自家用車をとめている立体駐車場の故障で車を止められなかった
女性	20代	学生	水道が止まった
女性	40代	自営業	とにかく交通マヒと電話の不調状態が続きパニックに陥った。余震が怖くて落ち着かない
男性	40代	勤め (全日)	携帯電話・メールが繋がらない
女性	20代	勤め (全日)	電話が繋がらない
女性	30代	自営業	電話が繋がらなかったのが一番困った
女性	20代	無職の主婦	電話が繋がらなかった
男性	30代	勤め (全日)	交通手段が寸断されたこと、それらの復旧の情報がなかなか分からなかったこと
女性	60代以上	無職の主婦	他の地域の情報が入らずどのくらい地震震源地の情報が得られず交通機関情報が一番手に入らず困った
男性	50代	勤め (全日)	速報が遅い
女性	30代	勤め (全日)	携帯が繋がらないこと
男性	40代	勤め (全日)	余震の情報
女性	20代	無職	戸の建て付けが悪くなった
男性	20代	自営業	困った事は特になかったが、今後の生活資金の不安 銀行に預けているので)下ろせるかどうかの不安はあった
女性	20代	勤め (パートタイム)	連絡が取りにくかった
女性	20代	無職の主婦	電話が繋がらなかった
男性	40代	自営業	仕事
男性	40代	勤め (全日)	交通渋滞で移動に時間がかかった
女性	30代	勤め (パートタイム)	電話が通じなかったこと
女性	40代	無職の主婦	電話が繋がらなかった
男性	20代	学生	電話が使えなかった
女性	40代	勤め (全日)	情報が少ない
女性	20代	無職の主婦	防災物がなにもなく、どうしていいのか全くわからなかった
女性	40代	無職の主婦	余震の度に子供が不安がる
男性	50代	自営業	JRのニュースはイヤというほど聞けたが、西鉄の情報が全く無かった。西鉄の情報を始めてきたのは地震から時間30分経過後でした
女性	40代	勤め (パートタイム)	余震の情報
女性	20代	自営業	地震の経験が全くといっていい程なかったもので、どうしたらいいのかわかりませんでした
男性	20代	勤め (全日)	予定が狂った
男性	30代	勤め (全日)	家族との連絡
男性	50代	勤め (全日)	マイコン制御つきのガスメーターが、震度5以上を検出すると、自動的にガスをストップするということを知らなかったために、ガスが止まったとき、自宅の周辺のガスが止まっているのかと思っていた。そのため、しばらくガス会社に連絡することに思い立たず、ガスが使えなくなってしまうと思ったこと 思い切って、ガス会社に連絡して、はじめて、自分のうちのガスメーターが、ガスを止めてしまったことを知った。早めにテレビなどで、復旧方法が流されていたら…と思った
男性	50代	勤め (全日)	一時的に避難はしたが、津波等の情報がまったく得られなかった
男性	40代	勤め (全日)	地震後、緊急対応をする仕事なのですが、業務連絡がつかなかった
女性	20代	勤め (パートタイム)	本棚が倒れた
女性	50代	無職の主婦	固定、携帯電話がつながらず家族、親戚の安否連絡が取れなかったことです!!
男性	40代	勤め (全日)	電話が繋がらない
男性	50代	勤め (パートタイム)	スーパーが、閉店になった
男性	40代	勤め (全日)	車の渋滞
女性	40代	自営業	電話が通じなかった事
女性	20代	勤め (全日)	住んでいるマンションが安全かどうか判断ができなかった
女性	20代	勤め (全日)	今まですごい地震など経験したことがなかったので対処に困った
男性	20代	自営業	疲れた
男性	40代	勤め (全日)	交通渋滞が発生した

Q9. 何か困ったことはありましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	20代	勤め 全日	電話が通じない
女性	50代	家族従業 家事手伝い	割れたものの片付け
男性	30代	勤め 全日	電話が繋がらない
女性	30代	自営業	家を片付けたり 知人と連絡を取りたかったが仕事に行かないといけなかった
女性	30代	無職の主婦	連絡手段を絶たれた
女性	40代	勤め (パートタイム)	携帯や電話が通じなかった
男性	30代	勤め 全日	仕事場の片付けが大変だった
女性	30代	勤め 全日	地震速報ではあまり流れませんが、未だに余震が続いていて、ゆっくりトイレや調理、入浴などができません
男性	50代	勤め 全日	電話が通じない
女性	40代	自営業	ラジオが欲しかった
男性	50代	自営業	余震が気分が悪い
男性	30代	無職	ガスが止まった
男性	30代	勤め 全日	携帯電話に繋がらない
女性	20代	勤め 全日	携帯が使えない。交通機関がストップ。余震の可能性
男性	20代	勤め 全日	物が倒れた
男性	30代	無職	お店が休業してたのが困った
男性	20代	勤め 全日	照明が壊れて真っ暗
女性	30代	勤め 全日	連絡困難
女性	30代	勤め (パートタイム)	天神の店がほとんど閉まり 街に溢れた人で道路がいっぱいになってなかなか進まなかった
女性	30代	無職の主婦	電話が通じない
女性	50代	勤め (パートタイム)	電話
女性	40代	家族従業 家事手伝い	家族に連絡がすぐ取れなかった
女性	20代	無職の主婦	子供のこと
男性	30代	勤め 全日	電話が繋がらない
男性	50代	自営業	家から飛び出すかじっとしているかの判断が難しい
女性	30代	無職の主婦	すごく怖かった。不安で眠れなかった
女性	40代	無職の主婦	地震の後いつまでも身体が揺れている感じがする事と不安な毎日
女性	40代	自営業	住んでいる建物に水漏れが起こった
女性	30代	勤め 全日	電話が繋がらなかった
女性	30代	勤め 全日	エレベーターが長期使えなかった
男性	40代	勤め (パートタイム)	電話が繋がりにくい
女性	50代	無職の主婦	電車が止まった
男性	20代	学生	予定していた飲み会のお店が臨時休業になったこと
女性	20代	無職の主婦	携帯電話が使えなかった
女性	30代	勤め 全日	連絡が取れない
男性	50代	勤め 全日	電話が使えないこと
女性	30代	勤め (パートタイム)	電話が使えなくなること
女性	40代	勤め (パートタイム)	食器が割れた
男性	40代	勤め 全日	両親と別居しているので万一の場合が大変
女性	30代	勤め 全日	情報が少ない
男性	30代	勤め 全日	余震が頻発して夜中目が覚めること
女性	60代以上	勤め 全日	横浜の息子に連絡を取ろうとしたが、携帯電話が繋がらなかった
男性	60代以上	無職	外出先からの連絡
男性	50代	勤め 全日	電話が通じなかったこと
女性	30代	無職の主婦	携帯電話が繋がりにくい
男性	20代	勤め 全日	物が落ちてきた
女性	50代	勤め 全日	水道が断水したが電話がなかなか通じなかった。メールで知らせたが役に立たなかった。断水から12時間後に修理に来た
女性	50代	勤め (パートタイム)	商店やコンビニが閉まっていた
男性	60代以上	無職	電話が使用できなかった
女性	30代	勤め 全日	電話連絡がつかなかった
女性	20代	勤め 全日	携帯電話が全く繋がらなかった
女性	20代	勤め 全日	貯水槽からお湯が噴射
男性	30代	勤め 全日	エレベーターの停止
女性	30代	勤め 全日	固定電話が規制されて携帯を持っていない人と連絡が取れなかった。
男性	50代	自営業	余震がいつ収まるのかわからない
男性	60代以上	無職	電話などの通信手段がOFFになり、回復に時間がかかったこと
男性	60代以上	自営業	電話が繋がらなかった
男性	20代	学生	電話が通じなかった
女性	50代	勤め 全日	電話 携帯、メールも含む)が繋がらなかった
女性	30代	勤め 全日	店が閉まっていた
女性	30代	無職の主婦	玄関のドアと壁をつなぐ部分にヒビが入りました
男性	20代	勤め 全日	お気に入りの皿だけ割れた
女性	20代	勤め 全日	電話が使えないこと
男性	20代	学生	通信手段が全て使えなかった。後から聞くと、かえて県外からのメールのほうが届いたようだった
男性	50代	自営業	電話連絡
男性	60代以上	自営業	商品が駄目になった
女性	50代	無職の主婦	トイレが壊れた
女性	20代	勤め 全日	踏み切りの遮断機があがらず渋滞した
男性	60代以上	無職	携帯電話の不通

Q9. 何か困ったことはありましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	50代	自営業	しばらく情報が入ってこなかった事
男性	20代	勤め 全日	電話が通じない事
男性	40代	勤め 全日	水道管の断絶
女性	20代	勤め 全日	一人暮らしなので、誰に頼っていいかわからなかった
男性	30代	勤め 全日	後日、たくさんのお見舞いメールや電話の対応
男性	60代以上	勤め 全日	友人知人の安否確認不可
女性	20代	勤め 全日	携帯が使えなかった事
女性	50代	勤め 全日	電話が通じない
女性	20代	勤め (パートタイム)	子供がおびえていたこと
男性	60代以上	無職	被害個所の修復
女性	20代	勤め (パートタイム)	何をしたらいいかわからなかった
男性	40代	勤め 全日	片付けが大変
男性	20代	学生	移動できないこと
男性	20代	勤め 全日	携帯 (FOMA) が全く使えない
男性	60代以上	無職	震度の発表と体験震度とのギャップ
女性	50代	勤め 全日	とにかく電話が出来ないのが困った
女性	50代	自営業	度重なる余震が怖い。電話が通じないのが不便だった
女性	20代	勤め 全日	家が安全なのか、外に出た方が安全なのか、判断がつかなかった
女性	20代	勤め 全日	電話が通じない
男性	20代	勤め 全日	住んでいる地域や家族や知人の住んでいる地域のスポット的な情報がわからなかった
男性	20代	学生	家具や食器が散らばった
男性	30代	勤め 全日	マンションの状態が内外から分からない。次の地震に耐えられるのか診断して欲しい
男性	60代以上	無職	電話の不通は最大の困りごと
女性	20代	無職の主婦	地震後、マンションの管理会社は何も対応してくれなかった
男性	40代	勤め 全日	家族との連絡
男性	50代	自営業	携帯電話が使えない
男性	20代	勤め 全日	携帯が繋がらない
男性	30代	無職	バイトがキャンセルになった
女性	20代	勤め 全日	その日お風呂に入れなかったので銭湯に行った
男性	50代	勤め 全日	本箱が倒れてしまった
男性	50代	自営業	電話が繋がりにくかった
女性	20代	勤め 全日	今まで地震がまったくなかったものでこれから起こりうる余震が全く予測できないとテレビで言っていたので常に恐怖感があること
男性	50代	勤め 全日	安否確認のための携帯電話が全く全く役に立たなかったこと
女性	20代	勤め 全日	自宅の状況が気になって仕事が手につかなかった
女性	20代	自営業	玄海島ばかりで一般的な市民の対応が遅い
男性	30代	自営業	ガスを使っているかどうか不安だった
男性	40代	自営業	電話が使えない
女性	20代	勤め 全日	単身なので、誰も頼るものがないと心細かった
女性	20代	無職の主婦	家族との連絡がなかなか取れなかった
女性	20代	勤め 全日	余震が気持ち悪かった
男性	50代	勤め 全日	電話が繋がらない
男性	30代	自営業	電話
男性	50代	自営業	何をしていたかわからなかった
男性	20代	勤め 全日	連絡がつかないこと
女性	50代	勤め (パートタイム)	携帯電話が使えなかったこと
男性	30代	無職	破損したガラス類の処理
男性	20代	勤め 全日	店の臨時休業が目立った
男性	20代	勤め 全日	電話の不通状態
男性	60代以上	無職	断水でトイレが使えなくなった
女性	50代	勤め (パートタイム)	電話不通
女性	50代	勤め (パートタイム)	情報が少ない
男性	30代	勤め 全日	携帯が使えなかったこと
男性	50代	勤め 全日	社員への連絡が取れなかったこと
男性	20代	勤め (パートタイム)	近所のスーパーが閉まってしまった
男性	60代以上	勤め 全日	マンションの高層階は揺れがひどかった
女性	60代以上	無職	携帯があんなに簡単に止まるとは思わなかった
女性	50代	勤め 全日	電話が繋がらない
男性	20代	学生	携帯電話の通話が全く繋がらなかった
男性	20代	勤め 全日	交通機関のSTOP
男性	30代	勤め 全日	仕事でだったので、地震におびえる妻子のそばにすぐに帰れなかった。また、携帯が繋がりにくく家族の安否がすぐに確認できなかった
女性	50代	勤め 全日	家の中が散らかった
男性	30代	勤め 全日	風呂に入れなかった
男性	60代以上	無職	交通と電話
女性	60代以上	無職の主婦	電話
女性	60代以上	無職の主婦	大量のガラスが割れた
男性	60代以上	自営業	電話がつながらなかった
女性	60代以上	自営業	立っているとき膝より下が揺れているように感じる。椅子に腰掛けるとやはり当時の感覚が有る
男性	60代以上	無職	避難すべきか迷った

Q24. 今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	20代	勤め（パートタイム）	机の下にカラーメイトをおく
女性	20代	無職の主婦	地震に対しての対処方をもっと知っておくべきだったと思う。どこに避難した方が安全だったのかなど
女性	30代	無職の主婦	自分はマンションの1階に住んでいるので、被害もほとんどなかったが高層階ではビビが入ったり壁の一部が剥がれ落ちたりしているようで、自分の家の中の状況だけで安心してはならないと思った
女性	30代	勤め（全日）	家具の固定、連絡の取り方の打ち合わせ
女性	40代	勤め（パートタイム）	避難場所を確認しておく必要があると感じた
女性	40代	勤め（全日）	ベッド近くに落ちるような物を置かない。すぐ逃げられるような格好で寝ることと非常バッグを用意すること
女性	30代	勤め（全日）	日頃から地震に対する備えが必要だと実感しました。家具の配置や家全体の点検、非常持ち出し品の準備など
女性	60代以上	無職の主婦	心構え
女性	30代	勤め（パートタイム）	地域住民との協力
男性	50代	勤め（全日）	家具が倒れないようにしようと思う
女性	40代	勤め（パートタイム）	近所とのコミュニケーション。集合住宅になると、自分の家だけ対策していても被害を最小限に止める可能性が低くなるので、マンション全体で防火訓練などをもっと積極的に行ったほうがよいと思いました
男性	40代	自営業	家具等の下敷きにならないよう、倒れないよう、または高いところに物を置かない
女性	30代	無職の主婦	地震がこんなに怖いものだとはわかりませんでした。地震に対して、何もわかっていなかったと思います。住居も高い階ほど被害が大きかったようです。まず、安全を確保する事が大切だと思います。地震が来たらまず机の下に隠れる事も、場合によっては怪我をする事も多いと初めて知りました。今回の地震で得た事も多いです
女性	40代	無職の主婦	非常持ち出しの袋を用意しておくべき
女性	20代	勤め（全日）	家具等の地震対策
女性	30代	勤め（全日）	家具の固定（しかし、賃貸マンションなのでできない）
女性	30代	無職の主婦	情報の開示
男性	30代	勤め（全日）	冷静でいる事
女性	30代	勤め（全日）	何かあってから準備するのでは遅すぎると、もしも被害が大きければどうなっていたのだらうと恐ろしいです。もっと真剣に備えをしておかなくてはと思いました
女性	40代	自営業	最低3日分の自分で用意できる非常食は必要だと感じた
女性	20代	勤め（全日）	いつでも外に出られる準備
女性	20代	勤め（全日）	多少でも非常持出品を用いて置くべきだと思った
女性	20代	勤め（全日）	避難訓練として置くべきだと思った
男性	30代	勤め（全日）	連絡方法
女性	20代	学生	ご近所さんとの関係、出入り口付近に物を置かない、割れ物の置き方
女性	40代	勤め（パートタイム）	持ち出すものを用意しておく
女性	30代	家族従業 家事手伝い	何をしても自然の力にはかなわないと確信しました。でも緊急時の家族との連絡方法は決めておきたいと思いました
男性	40代	勤め（全日）	自分たちが住んでいる地域は大きな被害がなかったのですが、もし避難するような事態になった時は、やはり地域のコミュニティが重要だと思います
女性	40代	勤め（全日）	発生初日の現状の情報が乏しく、発生直後の事ばかりを繰り返して伝達している為、今どうしたらいいのかわからなかった人も多かったと思う。個々が怖がらずに冷静に考える事が肝心だと思った
男性	40代	自営業	隣近所で安否など声をかけあう
女性	20代	勤め（全日）	地域・近所のつながりが大切だと感じました
男性	60代以上	勤め（パートタイム）	防災対策
女性	50代	無職の主婦	家庭→家具の転倒防止、地域→避難場所の確認
女性	40代	無職の主婦	他所で起こる災害を他人事だと思わず、防災に関する知識や知恵を収集すること。日頃から、「イザという時どうするか」を意識する事
女性	50代	自営業	避難マニュアルの必要性
男性	40代	勤め（全日）	まず何をすればいいのか
男性	20代	学生	非常用の準備
女性	40代	無職	自分が地震に遭って気付いたのですが、情報が一部の地域ばかりで知りたい場所の情報が全く無かったので電話で連絡をしようとしたらつながらない状態でした。情報が無いというのが不安な気持ちにしているのではないですか
男性	30代	自営業	何か決め事が必要
女性	20代	学生	地震が来ないと安心していた為に被害が大きくなった面があると思う。危機感を持って、地域での防災活動を活発に行うべき
女性	30代	勤め（全日）	家具等の配置、非常時の対策の無知さがありどのように対応すればいいのかわかり知識を得なければと思った
女性	30代	無職の主婦	すぐに電話が繋がれば
男性	30代	自営業	日本全国どこでも大きな地震がおこる可能性があるということを理解すること
女性	40代	勤め（パートタイム）	冷静に行動できるよう、地震等に対応できる知識・意識を持っているべきだと感じました
女性	40代	無職の主婦	非常時備品の準備（特に携帯用ガスボンベや水）が必要と感じた
女性	30代	勤め（全日）	地震保険！持ち家には必ず加入が必要だと思った。そして、家具の固定や、日頃から部屋を片付けて、要らない物はどんどん捨てるべきだと、改めて思った
男性	40代	自営業	安否の確認方法
女性	40代	無職の主婦	今回の地震では、幸いひがいがなかったが、まだ余震も続いているため気の抜けない状態。まず火の始末、落下物の点検などに気を配り、地震の静まるのを待つ
女性	30代	無職の主婦	タンスをとめる
男性	30代	自営業	地震はどこでも起きる
女性	30代	勤め（全日）	家の状況をかんがみるに、特に防災を意識しなくても、この程度の地震なら平気だと確信できた。トラウマもない
男性	50代	勤め（全日）	家族分の非常用の食料と水の確保です
女性	40代	自営業	余震があつて初めて地震と呼べるのだと実感した。地震後に対する備えが肝心
女性	50代	無職の主婦	安全な所と思ってただけに、地震対策等の不備は許せた。建物の被害は無くても、結構精神的にまいってる、余震にバニくつてるところがある。病院に行った、そんな時のケアが出来る所がほしい

Q24. 今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	30代	家族従業 家事手伝い	部屋の中をキレイに片付けておく、いざ避難するといざ時に持ち出す物をすぐに集められるな...と思いました。形ある物は壊れる...と思うので物に執着するよりいかに身軽に避難できるか、ということにポイントをおいて地震対策をして行きたいと思っています。でも家具転倒防止対策とかもとてあえずはやっていきたいです
女性	30代	自営業	どんな場所でも、自分の住んでいる所だけは安全だなんてことはあり得ないと実感しました。普段から備えをしておくこと、家族で話し合っておくことが大切だと思います
女性	30代	勤め 全日	地震の際、意外と冷静で入れたのでやはり冷静に行動するというのは大切だと思う。地域の非難箇所が何処にあるのかわからなかったため、今回は何も無く終わったが、もし建物の倒壊や火事等予想の付かない事態に陥ったときに、家族とはぐれたりする危険があることが解った。緊急時の携帯電話は繋がりにくい改めて知ったため、確実に会える場所や連絡先を決めておくことが必要だと思う
女性	40代	無職の主婦	うちが狭いため安全を確認して眠れる部屋がなかったので一部屋はなるべく大きな家具を置かないで地震や余震に備えられるようにしたいです。後、いまだに小さな余震 震度1、2)でも怖い
女性	30代	無職の主婦	連絡
女性	40代	勤め (パートタイム)	家具の転倒、火災を防ぐこと
女性	40代	無職の主婦	テレビが不安定な状態だったので落ちてしまった。常に家具の設置の見直しをしたり、寝る方向を変えて安全に配慮したり、日常の中で家族一人一人が地震を意識することが大切
女性	40代	勤め (パートタイム)	ライフラインの確保
女性	50代	勤め (パートタイム)	家具の固定、高いところに物を置かない
男性	50代	勤め 全日	コミュニケーションの必要性を強く感じた
女性	30代	無職の主婦	家族でまず“もしもの時”どうするかなどきちんと決めておきたい
女性	40代	勤め (パートタイム)	保険に入るべきだ
女性	40代	勤め 全日	素早い避難指示と詳しい情報
女性	40代	勤め (パートタイム)	防災グッズの用意と、非常持ち出しの用意
男性	60代以上	無職	あわてないこと
女性	30代	無職の主婦	地震時の水・食料の備蓄、伝言ダイヤル、掲示板などを利用した家族間の安否確認方法
女性	20代	勤め 全日	避難場所の確認、ベットの周りに倒れそうなものを置かない、火の側、ストーブの側から付いている時は離れない
女性	30代	無職の主婦	子供達の安全確保
女性	40代	自営業	家の内部は出来るだけシンプルにしておくこと。地域コミュニティでの日常の声掛けなど
男性	30代	勤め 全日	連絡手段の徹底
男性	30代	勤め 全日	家具の転倒防止、避難の確認、食料の確保、お金など貴重品の保管や持ち出し方法
男性	40代	勤め 全日	あわてないこと
女性	30代	無職	持ち出し袋などの備え
女性	30代	勤め 全日	連絡手段の確認 両親がメールに気付かずずっと連絡が取れなかった)建物や家具の固定 実家の周辺で1軒だけ止り止めをしていなかった家では瓦が落ちたとのこと
男性	20代	学生	日ごろの訓練と備えが大切だと感じた
女性	40代	無職の主婦	地震保険への加入、非常持ち出し袋を容易に取り出せる場所へ用意しておく、家具が倒れない工夫
男性	20代	勤め 全日	地震は他人事と考えずに過ごすことが重要
女性	30代	勤め 全日	家具の固定
男性	40代	勤め 全日	地震が起きた時にまず身の安全を守る方法をすぐできたことが大きかった
男性	20代	勤め 全日	地震後の余震に対するケア。今後の地震活動の状況。地震に注意して「ください」では、どう動いて良いかわからないので、明確にどこに避難すべきか、どういう行動に出た方がいいのか放送すべき
女性	20代	勤め 全日	避難場所の確認
男性	30代	勤め 全日	家具は固定するべきである
女性	20代	勤め 全日	家具の固定など
女性	40代	勤め 全日	連絡方法を確認しておく
女性	40代	自営業	まさか地震が起こるとは全く思っておらず、経験もなかったし、学校での避難訓練も火災ばかりだったので、とっさの行動もできず、全てが準備不足だった。今回経験したことでまだ立ち直れないが、情報をとにかく集めて、日頃から身の危険を防止するようなことを真剣に考えて生きたいと思う
男性	40代	勤め 全日	いざというときの心構え
女性	30代	勤め (パートタイム)	地域において、どこがどれだけの被害にあったかなどの情報をみんなで共有出来るようなネットワーク作りが必要だと感じた
男性	50代	勤め 全日	しっかりした情報
女性	20代	勤め 全日	今回、家具の上から重たい危険なモノが落ちてきた場所から、落ちるまでの過程も把握できたので、幾ら安全策を施しても完璧ではないため、家具が転倒してきても、なおかつ無事で安心できる場所を確保できる様な配置を考えると、突発的な事態に遭遇しても安全に避難するための経路を確保する。また深夜に発生した場合の光源の確保の重要性を改めて再認識した
女性	40代	無職の主婦	家具の固定、家族との連絡方法を決めた
女性	20代	無職の主婦	耐震構造
男性	30代	勤め 全日	住居がマンションなのでもっと住民同士相互理解、交流が必要だと思った
女性	60代以上	無職の主婦	状況判断を的確に把握して行動する。地震災害がないと言われていた地域でもこのように地震被害がある地域防災訓練は必要だと感じました
女性	30代	勤め 全日	駐車禁止区域ばかりで緊急車両が入れるスペースが無い。地域毎の被害情報が欲しい
男性	40代	勤め 全日	地域の情報
女性	30代	無職の主婦	ここは安全という地域はないのだと実感したので、もっと地震対策をとっておこうと思った
女性	20代	無職	非常食や飲料水、電池、懐中電灯の準備は、最低限、必要になりそうだった
男性	20代	自営業	地震後の行動と生活
女性	20代	無職の主婦	常に災害に対する知識と備えが必要だと感じた
男性	40代	自営業	相互の意見を交換しよう
男性	40代	勤め 全日	あわてず騒がず
女性	30代	勤め (パートタイム)	家族が外出する際の行き先はしっかり聞いておく
女性	40代	無職の主婦	家具等の固定
男性	20代	学生	連絡をとにかく取るということ
女性	40代	勤め 全日	迅速で正確な情報配信

Q24. 今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	20代	無職の主婦	突然の災害に備えて、どう行動すべきかを徹底して話し合う
女性	40代	無職の主婦	倒れてくる家具がない部屋があるべきだと思った。地域としては、日頃から人の住んでいない古い建物の管理・処理を積極的にすべきだと思った
男性	50代	自営業	①無事情報の確認と、無事情報の発信。②地域の見回り③時の声かけ（特に初対面の人への）。④自分と、自分と同居している人たちの安全確保
女性	40代	勤め（パートタイム）	最新の情報の提供と地域の避難場所の確認
女性	50代	勤め（パートタイム）	自宅はたいした被害はなかったが、家具等の固定をしておかないといけないと思いました。まだ余震があるのでびくびくしてます
女性	20代	自営業	正直、福岡で大きな地震がおきるとは思っておらず、あまりにも知識不足でしたので、地震に対する知識が大切だと感じました
男性	20代	勤め（全日）	地震自体は避けられないため対策はあまり考えないが、その後の二次災害に対する備えをもっと十分にやらないといけないな～と感じた。電話つながらないし、道路は渋滞、公共交通機関麻痺、火災等発生時の避難、二次災害を自らが起こさない等
男性	30代	勤め（全日）	家族だけでなく、遠くに住む身内にも安否をすぐ連絡する必要があった
男性	50代	勤め（全日）	家具などの固定、離れ離れになったときの落ち合う場所を決める、など
男性	50代	勤め（全日）	世の中、これだけ便利になっているのに家族等への連絡がすぐ取れず、地震情報も得にくいとは皮肉なものです。地震発生時に我が身こだけしか考えられず、反省しました。隣近所あるいは周辺の人たちとの協力が大切ですね
男性	40代	勤め（全日）	災害時の安否確認がすぐにできるシステム
男性	40代	無職の主婦	家具の固定とか、懐中電気の電池の準備とかの備え
女性	20代	勤め（パートタイム）	避難訓練、地域での地震講習など、災害に対しての予備知識をつける
女性	50代	無職の主婦	家庭内の大型家具が転倒しないようこつつかえ棒、固定をする。食器棚の扉が開かないように、固定する。地域住民との密な連絡です
男性	40代	勤め（全日）	家屋、部屋の中を対策するべきだと感じた
男性	50代	勤め（パートタイム）	結束力が大事だと分かりました。備えあれば憂いなし！
男性	40代	勤め（全日）	あらかじめの話し合い
女性	40代	自営業	落ち着いて対処できる様に、日頃から意識しておくこと
女性	20代	勤め（全日）	いざという時に、まず何をすべきかをしっかり理解しておくこと
女性	20代	勤め（全日）	人事ではないと感じ、万が一の備えやそうなったときどうすべきか話合うことが大事だったと思った
男性	20代	自営業	徹底した対策
男性	40代	勤め（全日）	避難場所の情報が重要と感じた
女性	20代	勤め（全日）	いつ起こっても大丈夫なように日ごろから備えておくことが大切
女性	50代	家族従業 家事手伝い	被害に遭われた方への対処
女性	40代	勤め（パートタイム）	高いところに重いものや割れ物を収納しない。家族での避難場所や連絡方法の確認。非常持ち出し品の用意
女性	30代	自営業	確実な情報を早く知ること(町内放送などを使ってほしい)。また今回は家族とはすぐに連絡が取れたが、猫が5匹中4匹外に行ったままだったので、ペットの安全を確認できる装置がほしい
女性	40代	無職の主婦	ベッドのすぐそばに大きな家具を置かない。固定できるものは固定する。ベッドの事も考える。家族との連絡方法や、避難場所
女性	30代	無職の主婦	生命の安全。連絡手段
女性	40代	勤め（パートタイム）	避難場所をすぐ伝えて欲しい
女性	40代	無職の主婦	普段の生活で災害に対する意識を高めることが大切だと痛感した
女性	30代	勤め（全日）	長らくワンルームに住んでいます。短期入居の学生さんが多いせいか、長年住んでいても、他室の方との交流は殆どありません。今回、一番怖かったのは、誰も避難場所を知らなかったという事。若い方ばかりなので、ただただ携帯片手にご両親と連絡を取ろうと右往左往されるばかり。幸い、私は何となく知っていたので、もし、また大きな地震がきたら、年長の私が引率しなきゃ!と緊張しつつ思ったものでした。また、賃貸なので不動産側の対応もいまい加減です。掛け捨ての災害保険に強制的に加入させられていても、今回の地震で壊れた物を補償してくれるわけでもなく、全くあてにできません。若い方々は所詮親のスネかじり、殆ど泣き寝入り状態です。もっと他室や付近の方々と交流をもち、いざという時、色々な面で協力しあえるコミュニケーション作りの必要性を痛感しました
男性	50代	勤め（全日）	地震発生時の対処の基本的知識や訓練
女性	40代	自営業	地震保険に入っていればよかったと思いました
男性	50代	自営業	①情報の入手 ②家族の連絡 ③家具対策 ④水の確保 ⑤避難先の確認
男性	30代	無職	避難のための準備
男性	30代	勤め（全日）	家具等の固定が必要
女性	20代	勤め（全日）	避難場所や連絡方法の確認を改めました。実家から離れて住んでいるため、すぐに実家に行けないので余計に心配になります
男性	20代	勤め（全日）	火の元に対して安全点検をしていきたい
男性	20代	勤め（全日）	地域ぐるみで防災意識を高めて、連携をとっていくべき
女性	30代	勤め（全日）	仕事での地震でしたが災害マニュアルなどがなく、どう対処していいのか困ったので、今後はマニュアルを作って災害に備えようと思いました
女性	30代	勤め（パートタイム）	慌てず冷静に素早い判断が必要だと思うけれど、予想外に私の周辺では皆そのような行動が出来ていたと思う。台風で普段から災害に慣れているからだろうか
女性	30代	無職の主婦	家具の固定や非常食の準備など備えをしておく
女性	20代	無職の主婦	ご近所とのコミュニケーション
男性	30代	勤め（全日）	的確な情報収集
女性	40代	家族従業 家事手伝い	地震による被害はなかったけれど今後のため食器棚を固定し、持ち出し袋を用意した、いつも地震の事を頭に入れる事
男性	30代	勤め（全日）	公共交通機関の早期復旧（高速道路を含む）
男性	50代	自営業	行動の判断が難しい。ラジオが無い。懐中電灯はあるがすぐに手の届く所に無い。とにかく何もできないでじっとしていることしかなかった。行動判断はやはり難しい。最低限のものは準備しときたいし手の届く所においておくようする
女性	30代	無職の主婦	近所付き合い
女性	40代	無職の主婦	福岡の方たちが、今回の地震が、終わったと思うのではなく地震は、連鎖する可能性もあるので もっと地域との関わりを日頃から大切にしてもらいたいと思いました
男性	30代	勤め（全日）	緊急時の連絡マニュアル

Q24. 今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
女性	40代	自営業	まずは家具などが倒れないようにしようと思った。地震対策自体あまり考えていなかった。もっと意識を高めるようにしたい
女性	30代	勤め 全日	連絡経路の確保
女性	30代	勤め 全日	耐震構造の家
女性	30代	勤め 全日	家族との連絡方法
女性	30代	勤め 全日	家族や知人との安否確認方法
男性	40代	勤め (パートタイム)	近所内コミュニケーション。電話に変わる確実な連絡法
男性	20代	勤め 全日	まずは、福岡でも大きな地震に遭遇しようということを認識すべきだと思った。その上で、非常持ち出し袋の準備や、避難場所の確認などを行うことが大事
女性	40代	無職	どの程度で避難をすべきか判断に困った。今後地震が起きたら冷静に判断しようと思う
女性	50代	無職の主婦	地域での情報が欲しい。地元の消防や警察からの巡回車でのマイクでの呼びかけなど
男性	20代	学生	すぐに情報を得られる環境を整えることと、情報交換などでコミュニケーションをはかり、気持ちを落ち着けること
女性	20代	無職の主婦	避難場所の確認
女性	30代	勤め 全日	必要最低限と思われる事はしておきたいと思った。家族、友人との緊急時の対応などもきちんと話したいと思った
男性	50代	勤め 全日	何をしようのか考えつかなかったことから、今後は震災対策をしなければならないと思った
女性	30代	勤め (パートタイム)	避難場所の確認や家族との連絡方法、家具等の転倒防止など色んな面で考えなければいけないと思った。まさか福岡で大地震が起きるとは思っていなかったから。無縁なことだろうと…
女性	40代	勤め (パートタイム)	日頃からの地震に対する備えが必要だと思った
女性	40代	勤め (パートタイム)	相手を守る
男性	40代	勤め 全日	あらかじめ、どのように行動するか決めておくことと、緊急持ち出し袋の準備、災害対策グッズの準備等
女性	30代	勤め 全日	決めておくこと
男性	50代	自営業	家具等を倒れないよう固定する
男性	30代	勤め 全日	電話に通信規制がかかったのはかなりの問題だと思った。通信網だけは規制をかけないほうがいいと思った
女性	60代以上	勤め 全日	地震がほとんど 全くといっていいくらい)おきない地域だと思っていたので、地震対策は全くやっていたいなかったが、備えあれば憂いなしで今後は地震対策を考えておく必要があると思った
男性	60代以上	無職	外出先からの連絡方法・近所の電話番号のメモ
男性	50代	勤め 全日	緊急持ち出し物を準備したり、家具の転倒などの防止策を考えるべき
女性	30代	無職の主婦	あわてないこと
女性	30代	無職の主婦	地震対策をしてなかったから、考えたい。
男性	20代	勤め 全日	日頃から対策してないと
女性	50代	勤め 全日	ライフラインの障害を知らせる方法を確保してほしい
女性	50代	勤め (パートタイム)	普段からのコミュニケーション
男性	40代	勤め 全日	家具の固定
男性	60代以上	無職	家具が倒れないようにしたい
女性	30代	勤め 全日	家具の固定や、万が一の時の非常持出品の準備、避難先の確認
女性	20代	勤め 全日	家のなかで、家具を固定したり、もっと大きな地震の場合の避難に関することを確認しておくほうがいいと感じました
女性	20代	勤め 全日	家具は腰の高さ。だから何もなかった。家具の下に固定する粘着性のあるもの。PCのモニターはビクリとも動いてなかった
女性	30代	勤め (パートタイム)	避難所を調べなきゃと思った
男性	30代	勤め 全日	携帯メールでの連絡
女性	20代	勤め (パートタイム)	地震が起ころうとパニックにならない事
女性	30代	勤め 全日	日ごろからもしものときに備えて家族で話し合っておく必要があると感じた
男性	50代	勤め 全日	連絡方法
男性	20代	学生	地震の恐ろしさに関する知識がなにより大事。自分はパニックになってしまった
男性	50代	自営業	家が崩れたときの避難口の確保。ドアが開かなくなると言うことを考えていなかった
女性	30代	無職の主婦	本当にまったく予想していなかったもので今でも今後についてどう対策指定医の皮からない状態です。今回はたまたま日曜日で家族が皆家にいたが、まずは家族と離れたときの避難先連絡方法を確認しようと思う
女性	30代	勤め 全日	地震後の連絡方法の確保
男性	60代以上	無職	家族の避難場所などを決めておく必要があると思った
男性	60代以上	自営業	地域のネットワーク
男性	20代	学生	交通規制など、道路網に対する迅速な判断・対応を地域がすべき
女性	30代	勤め (パートタイム)	落ち着いて行動することが大切だと思いました
女性	50代	勤め 全日	非常時の通信手段を把握しておく。持ち出し品の準備。避難場所の確認
女性	30代	勤め 全日	日本に住む限り、地震に関しては、何処であろうと、大地震の可能性はある。地震は起こるものとして、起こったときの対策をしておくべき
女性	30代	無職の主婦	まずは連絡が取れない場合の落ち合い場所や、日ごろから近所の方々や仲良くしているのも重要かと思います。面識があるのとないのとでは大きな違いがあると思います
男性	50代	自営業	ブロック塀が倒れて下敷きになって亡くなられた方がいたが、倒れやすく崩壊しやすいものは、即時撤去すべきと感じた
男性	20代	勤め 全日	家族
男性	50代	勤め 全日	不安定な家具、インテリアの配置は良くない
女性	20代	勤め 全日	地震保険や非常時の持ち出し物の用意
男性	20代	学生	携帯があまり役に立たないので、もっと有効な連絡方法の利用をしなければと感じた
男性	50代	自営業	転倒防止
男性	60代以上	自営業	慌てない事
女性	50代	無職の主婦	連絡
女性	20代	勤め 全日	どこにいても安全では無い事が分かり、災害に対する知識と心構えが必要だと感じた。実際に地震にあい怖さを感じた
男性	60代以上	無職	近くで瓦が所々落ちる被害があった。こんなにひどい地震は初めてあいました
女性	50代	自営業	家具を固定すること、出口を確保すること

Q24. 今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
男性	20代	勤め 全日)	災害時の一般電話、携帯電話等で連絡が取れなかった為、周囲の人達の状況がつかめず不安であった。災害伝言ダイヤルでは遅すぎるイメージが強く利用しようと思わない。各電話会社は災害時にパンクしないようにして頂きたい
男性	40代	勤め 全日)	近隣での連絡体制の確保。危機管理
女性	20代	勤め 全日)	近くにすぐ連絡を取れる知人が必要であると思った。一人だと何をしたいかわからない
男性	40代	勤め 全日)	今回はゴルフ場にいましたが、マンションにいる時の適切な対応を考えておくべきと思いました
男性	30代	勤め 全日)	冷静な対応、情報分析。民放テレビの伝え方は大げさすぎる
男性	20代	学生	連絡手段を確立しておくこと
男性	60代以上	勤め 全日)	非難場所の確定と広報、建物の耐震調査
女性	20代	勤め 全日)	冷静になる事と、伝達手段や非難経路の確認は大切だと思った
女性	50代	勤め 全日)	防災グッズを用意しておく。靴をその中に入れておく 裸足で、庭に出たので靴は必要だと思った)。家族が落ち合える場所を考えておく
女性	20代	勤め (パートタイム)	もっときちんと地震対策をするべきだと分かった 自分でできることからまず家具など固定して 非常時持出品を用意したりしようと思った
男性	50代	勤め 全日)	地域周辺の連帯
男性	60代以上	無職	余震の続く日が多く今だに不安である
男性	30代	勤め 全日)	巨大地震なんておきてしまったら仕方がないが、地震学者はアテにならないことだけはよく分かった。彼らの言うことなど無視して、日頃から備えることが大切だと痛感した
女性	20代	勤め (パートタイム)	地域の情報がもっとほしかった。どこに避難できるのかなど何もわからなかったから
男性	40代	勤め 全日)	地域の一人暮らしの高齢者に対する対応。火災の防止
男性	20代	学生	とにかくあわてないこと
男性	20代	勤め 全日)	何かあったときの連絡方法と落ち合う場所をきちんと決めておく
男性	60代以上	無職	隣近所との意思の疎通が大切だと思う
女性	50代	勤め 全日)	今はまだ余震もあり頭の中は怖いと言う事だけが残っていて何も考えていません
女性	50代	自営業	避難場所をはっきりわかるようにする。ビルの真下は歩かない
男性	60代以上	無職	地震直後、行政が地域への連絡を迅速にする必要がある
女性	50代	勤め 全日)	隣近所との付き合い
女性	20代	勤め 全日)	家庭では地震による対策は、他の地域 新潟・スマトラなどに地震が起こるたびに話し合っていたが、会社でのそういった話し合いがない。週末でよかったと思う 会社に行っている時に地震にあっていたらパニックになっていたかもしれない。地震後出社すると、慌てて災害時の連絡網を作ったりしていた。もう少し、企業にも災害時の安全対策を立てて欲しいと思う
女性	20代	勤め 全日)	今回は神戸や新潟ほどひどくなくて良かったと思ったけど、ちゃんと備えておかななくてはいけないと思った
男性	20代	勤め 全日)	何が起ころうとも対処出来る様に事前の準備はしておいたほうがいいなと思った
男性	30代	勤め 全日)	地域内の隣近所の付き合い、特に一人暮らしの高齢者の確認
男性	20代	学生	とりあえずあわてずに落ち着くこと
男性	30代	勤め 全日)	どこでもいつでも地震が起こることを実感した。防災準備が必要と感じた
男性	60代以上	無職	家族の安否を確認する方法。今回のように公共の電話類が不通の場合の対策を、あらかじめ確保しておく事が大事だ。但し、公共機関の不通を許すべきではない
男性	50代	自営業	全くしていなかったもので、いろんな面での準備が必要だと感じた
女性	20代	無職の主婦	電話のつながり方
女性	20代	無職の主婦	家具の固定は必須だと感じた。また、ラジオは常備しておくべきだと思った
男性	40代	勤め 全日)	連絡の取り方 避難の仕方
男性	50代	自営業	福岡は地震が無いと思っていたが、自然災害は地域を選ばない。これからは地震の備えをする必要がある
男性	20代	勤め 全日)	連絡の取り合い
女性	20代	無職の主婦	本棚等が倒れないようにしないといけないと思った
男性	30代	無職	インターネットでもテレビでももっと日常生活に繋がる情報を提供して欲しい。地震が起きましたよ、なんて知ってるわけだから
女性	20代	勤め 全日)	地震にあつたらまず何をすべきかきちんと考えておくこと。地震はほんとに突然くるのでいつでも心構えが必要
男性	50代	自営業	非常持ち出し品のチェックやガスや火の管理に注意したいと思った
男性	50代	勤め 全日)	ブロック塀の補強を考えないといけない。家具、調度品の固定方法を考える
男性	50代	自営業	転倒防止、火の始末
男性	30代	自営業	どんな場所でも何かが起こるという心構え
男性	30代	勤め 全日)	地震に限らず様々な非常時を想定して、物品と心の準備を普段からしておかなければならない
女性	20代	勤め 全日)	とにかく地震についての意識を高めることが必要だと思った
男性	40代	自営業	非常持ち出し袋の用意や家具等の固定
男性	50代	勤め 全日)	火災が起きなかったのが、不幸中の幸いだったが、家庭では、普段からガスの元栓締めや風呂水の貯め置きが必要と思った。地域では、防災訓練で避難訓練までであるので、その後のことまであらゆる場合を想定し、突っ込んだ話し合いをしておく必要があると感じた。災害時は、地域住民のお互いの助け合いがなければ、生きてゆけないと思うから
女性	20代	勤め 全日)	避難場所の確認
男性	30代	勤め 全日)	家具類の転倒防止策。非常食の用意。火災時の消火器
女性	20代	自営業	避難場所の確認をしていないといけない。地震と気づくのが遅かった。警察・消防・自衛隊など無事を確認するためにもっと1軒1軒巡回してほしい
男性	40代	自営業	連絡方法の確立
女性	20代	勤め 全日)	近所の人との助け合い
女性	20代	学生	早めに予防しておくこと
女性	20代	無職の主婦	地震はいつでもどこでも起こりうるとい事を頭におき、家の中での家具の固定や物の置き方の見直し、非常持ち出し品の準備をしようと思った
男性	50代	勤め 全日)	避難場所
男性	30代	自営業	連絡方法、避難場所の確認

Q24. 今回の地震にあわれて、ご家庭や地域の地震対策で、どんなことが大切だと感じましたか。

性別	年齢	職業	自由記述
男性	50代	自営業	こんな地震が起こるとは思っていませんでしたので、本当に驚きました。今回に関して言えば、例え準備をしていたとしても、動くことは出来なかったと思います。ただこれから気を付けようと思うことは、高いところに物を置かない・家具等の固定を頑丈にする、家族の連絡の付け方を確認しておく、ということです
男性	20代	勤め（全日）	家族との連絡の手段
女性	50代	勤め（パートタイム）	地域との連絡はまったくなく、みんな自分の家のことだけで精一杯だった。災害用ダイヤルのことを知っていたのは私だけで家族が知らなくて意味がなかった。携帯が繋がらなくて災害用コメントが流れたときはとても不安だった。せめて携帯だけでも通じてほしい
男性	50代	自営業	運の強さ、運の強さ、地震は防ぎようがない
男性	30代	無職	いざという時の心構え
男性	20代	勤め（全日）	隣人とのコミュニケーションを普段からとっておくことが大事だと感じた
男性	20代	勤め（全日）	地震又はその他災害等が起こった際の冷静な判断が必要だと感じた
男性	60代以上	無職	被災した建物に隣接している建物の無傷が多く、地盤の亀裂の上の建物の被害がある、というのは運しかない、と思った
女性	50代	勤め（パートタイム）	家族の団結と友人を大切にすること。今までは余り考えなかったけど、友人が電話を掛けてきてくれたり心配を掛けたんだと思います。友達は大事にしないと!
女性	50代	無職の主婦	避難場所の確認
男性	60代以上	無職	①情報の収集と的確な判断。②迅速な連絡手段の確保。③防災に関する地道な対応 普段の心がけ
男性	30代	勤め（全日）	連絡方法の確保
男性	50代	勤め（全日）	緊急連絡体制
男性	20代	勤め（パートタイム）	すぐ逃げられる場所を決めておくこと
男性	60代以上	勤め（全日）	家具等の固定が必要と思いました
女性	60代以上	無職	家族の避難場所の確認
女性	50代	勤め（全日）	地震にあったときの対処法を学ぶことが必要
男性	20代	勤め（パートタイム）	危機感を持つことが大切だと感じた
男性	20代	学生	家具の固定
男性	30代	勤め（全日）	今回は家族が一緒でしたが、離れている場合全く連絡が取れないと思われる為事前の申し合わせ等の大切さを痛感した
女性	50代	無職の主婦	めったに無いことでも数年に一度くらいは心に留め、できることをできる範囲で準備しておくべきである
男性	20代	勤め（全日）	周辺住民との連絡
男性	30代	勤め（全日）	いつでも災害に備えておくこと。避難場所を確認すること
女性	50代	勤め（全日）	近所の人との連絡
男性	30代	勤め（全日）	まったく考えてなかった地震で、今後は非常用具の備えをしっかりやったり 家具などの転倒防止を考えなければならぬ
男性	60代以上	無職	避難場所の確認と貴重品を直ぐ持ち出せる準備が必要と感じた
男性	60代以上	無職	二階家の耐震構造、地盤と基礎構造、自動消火システムの導入
男性	60代以上	無職	意識
女性	60代以上	無職の主婦	近所との連携
女性	60代以上	無職の主婦	棚の上の物が大分落ちたり、車庫の壁に大量のガラスを立てかけていたのが、全部割れて、車に傷がついたので、そのへんが反省点です
女性	60代以上	自営業	5年来位高層マンションが増えているが、基礎もしっかりして無く鉄筋じゃなく鉄骨建築が増えているので16年10月頃出来たマンションでも壁がひび割れたそうです（自己責任とのこと）
男性	60代以上	無職	緊急避難場所をあらかじめ考えておく。非常持ち出し品を準備する。地震が起こりうる前提にて生活を考える

付 サーベイリサーチセンターの業務案内

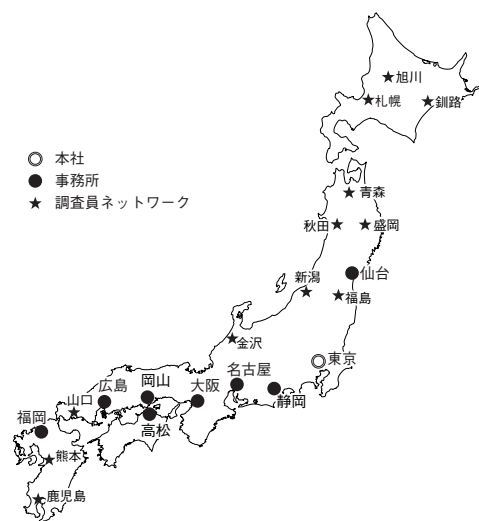
会社概要

商号 株式会社サーベイリサーチセンター
設立 昭和50年2月
資本金 6,000万円
年商 48億円（平成16年度）
代表者 代表取締役 藤澤士朗
社員数 180名
顧問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）
取引銀行 三井住友銀行 赤羽支店
百十四銀行 東京支店
みずほ銀行 尾久支店
東京三菱銀行 日暮里支店
UFJ銀行 上野支店
商工中央金庫 押上支店
所属団体 日本世論調査協会
日本マーケティングリサーチ協会
日本マーケティング協会
交通工学会
環境科学情報センター
日本災害情報学会他
その他 ISO9001認証取得
プライバシーマーク付与認定
建設コンサルタント登録

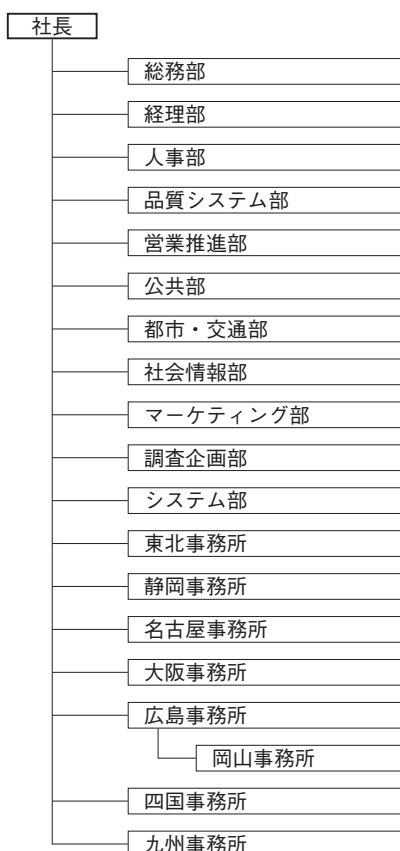
沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立
昭和51年6月 大阪事務所開設
昭和54年1月 静岡事務所開設
昭和61年9月 名古屋事務所開設
昭和63年4月 本社社屋竣工
平成2年4月 東北事務所開設
平成4年1月 広島事務所開設
平成5年6月 資本金を4,000万円に増資
平成9年3月 本社社屋増築
平成9年4月 九州事務所開設
平成10年4月 岡山事務所開設
平成12年7月 資本金を6,000万円に増資
平成15年4月 四国事務所開設

Network



組織図



●三宅島帰島住民アンケート調査

平成 17 年 5 月 9 日



帰島後厳しい生計

三宅島民
民間調査 経済、噴火前の60%

「帰島してよかった半面、生計の見通しは苦しい」。噴火による全島避難が2月に解除され、伊豆諸島・三宅島に戻った人の大半が、そんな思いを抱いている。民間の調査会社「サーベイリサーチセンター」（本社・東京都荒川区）が4月末、帰島民に初めて実施したアンケートでわかった。

アンケートは503世帯を訪問し、364世帯の世帯主またはそれに準ずる人から回答を得た。

噴火前の経済状況を100%とすると、回答の平均は「60%」だった。「変化がない」は4人に1人とまり。噴火前と比べた生計の見通しは、「少し苦しくなりそう」が42%、「相当苦しくなりそう」が28%で、合わせて7割を占めた。

現在の不安（複数回答）については「火山ガスの発生」が57%と、半数を超えた。回答者の6割以上が60歳以上で、「医療体制・設備」（48%）、「自分や家族の健康悪化」（42%）など医療面での不安も目立った。火山ガス警報が出て避難する必要がある場合、「おそらく避難できない」と答えた人は18%いた。理由として「避難場所が遠い」「家族に小さな子供や病人がいる」などが挙げられた。

一方、さまざまな不安を抱えながらも、「帰島してよかった」と思う人が54%いた。「どちらかというとよかった」を含めると7割近くを占め、「後悔している」人は1%しかいなかった。

平成 17 年 5 月 19 日



高齢化進み課題も

45%が年金暮らし

3人に2人が60歳以上、半数近くが年金暮らし。三宅島で、高齢化が進んでいる実態が、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」（荒川区西日暮里）が4月末、帰島した島民に行った調査で分かった。

調査期間は4月22～25日。帰島したとみられる島内の家屋503軒を回り、世帯主など364人から回答を得た。

それによると、60歳以上が3人に2人を占め、80歳以上が1割を超えた。世帯の主な収入源を聞いたところ、最も多かったのが「年金」だった。噴火前は25%だったが、避難生活中に40%、帰島後は45%と増え続けている。

また、火山ガスが高濃度に達し、警報が発令された場合の対応について、「おそらく避難できない」と答えた人が18%いた。理由を聞いたところ、「避難場所が遠い」が4割、「家族に小さな子どもや病人がいる」が3割、「どこに避難すればよいかわからない」が2割いた。

噴火前と比べた今後の生計の見通しは、「苦しくなる」が7割を占めた。それでも、帰島したとみられている7割が「よかった」と答えた。

読賣新聞 帰島「良かった」7割

三宅 「生計苦しくなる」も7割

島への愛着は感じるが、生計の見通しは厳しい。帰島が本格化し、今月から観光客の受け入れが始まった三宅島（三宅村）の帰島者を対象とした初めてのアンケート調査がまとまり、こんな結果が浮き彫りになった。

民間会社が調査

調査は民間調査会社「サベイリサーチセンター」（荒川区）が4月22日～25日、島内で調査に応じた364世帯を対象に実施。帰島前後の意識の変化や、家計の復興などについて、20歳以上の世帯主に面接で聞き取った。

それによると、帰島したことについて「良かった」が計69・5％と7割近くを上り、島への愛着も「強い愛着を感じる」が計9割を超えた。

一方で、現在の不安（複数回答）については、「火山ガスの発生」56・9％、「健康の悪化」41・8％など、有毒な火山ガスの放出が続く島内の現状に対する不安がにじんでいる。

また、回答者の半数以上が60歳以上で収入源を年金とする世帯は45％を占めた。このため、今後の生計については、噴火前より「相対苦しくなりそう」「少し苦しくなりそう」が合わせて7割に達した。

このほか、復興に関する質問では、9割を超える人が港湾・空港などの整備を「重要」と回答した。火山ガスの高濃度地区内にある三宅島空港は現在、救急患者などの搬送時以外は使用されておらず、東京・竹芝桟橋から約6時間要する定期便の利用が続く状況が背景とみられる。

アンケート結果について、平野祐康村長は、「島民の思いがなおむね反映されたものと思う。帰島して間もない段階で不安もあるだろうが、観光を柱に、苦しい時期を何とか乗り越えていきたいと話している。

●福岡県西方沖の地震に関するアンケート調査

平成17年4月14日

「地震起きると思わず」9割

3月20日の福岡沖地震で震度6弱の強い揺れに襲われた福岡市民の約6割が、大きな地震が身近に起きるとは「全く思っていなかった」と答えていたことが、民間調査会社のインターネットを通じてアンケートで分かった。九州北部は地震が比較的少ないとされていたが、防災意識がもっと高ければ、被害を小さくできた可能性もある、と専門家はみている。

福岡市民349人に「5割備えず」

サベイリサーチセンター（本社・東京都荒川区）が3月28日から5日間、福岡市の349人にアンケートした。

「この地域で大きな地震が起きると思っていたか」という問いに、58・7％の人が「全く思っていなかった」と答えた。「あまり思っていなかった」（28・7％）と合わせ、9割近くの人が切迫した危機感を抱いていなかった。一方、「ある程度思っていた」は10・0％、「思っていなかった」は2・6％だった。

地震前の備えについては、「何もしていない」が47・9％を占めた。「耐震診断をした」は0・6％、「家具が倒れないよう固定していた」は6・6％にとどまった。

総務省消防庁の13日現在のまとめでは、この地震で住宅約1500棟が全半壊、1人死に、約1千人が重軽傷を負った。中村功・東洋大教授（災害情報論）は「今回の規模の地震はどこでも起きる可能性がある。家具の固定など基本的な対策をしていれば被害はもっと少なかっただろう」と話している。



防災、防災計画関係の実績一覧

平成 17 年 5 月

防 災

阪神・淡路大震災に関する調査<第 1 回目>	自主企画調査	7 年	富士山噴火についての住民意識調査	東京大学社会情報研究所	15 年
阪神・淡路大震災に関する調査<第 2 回パネル調査>	自主企画調査	7 年	富士山噴火自治体調査	東京大学社会情報研究所	15 年
阪神・淡路大震災に関する調査<第 3 回パネル調査>	自主企画調査	9 年	東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査	東京大学社会情報研究所	15 年
芸予地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13 年	平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査	東京大学大学院情報学環	16 年
静岡県中部地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13 年	「東海地震情報についての防災ビデオ」作成	東京大学大学院情報学環	16 年
宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	15 年	民間放送局の災害報道に関する調査	東京大学大学院情報学環	16 年
宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査	自主企画調査	15 年	新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査	東京大学大学院情報学環	16 年
福島県西方沖の地震についてのアンケート調査	自主企画調査	17 年	北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14 年
自動販売機の転倒防止に係る実態調査	埼玉県	15 年	安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	15 年
東海地震の情報体系と対応に関する住民意識調査	内閣府	16 年	苫小牧市民の火山防災意識調査	東洋大学	15 年
気象情報に関する満足度調査	気象庁	13～16 年	安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	16 年
気象予報士についての現況調査	気象庁	16 年	台風23号についての兵庫県豊岡市民アンケート調査	東洋大学	16 年
新潟県中越地震による地震動被害アンケート	気象庁	16 年	救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査	東洋大学	16 年
「消防庁危機管理演習（震災対策）参加者アンケート」集計	総務省消防庁	16 年	東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査	東洋大学	16 年
静岡県中部地震に関する耐震改修状況調査	総務省消防庁	15 年	新潟中越についての十日町市民アンケート調査	東洋大学	16 年
砂防施設計画検討調査	(財) 砂防・地すべり技術センター	11 年	旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査	東京経済大学	14 年
浅間山噴火についての住民アンケート	(財) 砂防・地すべり技術センター	16 年	家屋の耐震化に関するアンケート調査	東京経済大学	15 年
地下街利用者の災害に関する意識調査	(財) 河川情報センター	11 年	水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査	東京経済大学	16 年
活断層長期予測デルファイ調査	(財) 地震予知総合研究所	12 年	「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査	富士常葉大学	16 年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査	(財) 日本気象協会	12・13 年	十勝沖地震緊急調査	東京経済大学	15 年
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査	(財) 日本気象協会	15 年	災害弱者に関する調査	文教大学	10 年
富士山噴火情報についての自治体調査	(財) 日本気象協会	15 年	防災についてのアンケート調査	文教大学	10 年
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査	(財) 日本気象協会	16 年	家屋等の耐震化に関する住宅調査	(財) 人と防災未来センター	14 年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査	(独) 防災科学技術研究所	14 年	東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における津波対策調査	(財) 人と防災未来センター	16 年
水害ハザードマップ調査	(独) 防災科学技術研究所	15 年	風水害時における自治体の災害対応に関する調査	(財) 人と防災未来センター	16 年
福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査	(独) 防災科学技術研究所	15 年	街頭設置消火器実態調査	東久留米市	12 年
名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査	(独) 防災科学技術研究所	16 年	東海地震についての県民意識調査	静岡県	3・5・7・9・11・13 年
新潟豪雨についての住民アンケート	(独) 防災科学技術研究所	16 年	民間事業所の地震防災応急対策調査	静岡県	3・5・7 年
消防団員の公務災害・健康増進についての調査	消防基金	9 年	自主防災リーダーマニュアル作成	静岡県	8 年
消防団員の安全教育・訓練に関する調査	消防基金	10 年	静岡県職員アンケート	静岡県	8 年
消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査	消防基金	11 年	地域防災アンケート	静岡県	10・14・15 年
阪神大震災における被災者の生活と意識に関する調査	N H K 放送文化研究所	7 年	防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査	静岡県	15 年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	N H K 放送文化研究所	12 年	防犯まちづくりアンケート調査	静岡県	15 年
有珠山避難者アンケート調査	N H K 放送文化研究所	12 年	家具の耐震技術アンケート調査	静岡県工業技術センター	8 年
東京都民の災害に関するアンケート調査	N H K 報道局	14 年	防災についての市民意識調査	浜松市	7 年
新潟県中越地震に関する住民調査	N H K 放送文化研究所	16 年	静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート	(財) 静岡総合研究機構	13 年
新潟豪雨災害に関する住民調査	N H K 報道局気象災害センター	16 年	震災 5 年後意識調査	N H K 大阪局	11 年
地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート	N P O 環境防災総合政策研究機構	16 年	阪神淡路大震災に関する住民意識調査	N H K 神戸局	16 年
新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査	N P O 環境防災総合政策研究機構	16 年	阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13・15・16 年
仮設住宅居住者の意識と実態についての調査	朝日新聞社	7 年	広域連携についてのアンケート調査及び災害 N P O アンケート調査	朝日新聞社	14 年
震災ボランティア活動に関するアンケート調査	朝日新聞社	7 年	阪神・淡路大震災 8 年後の被災者意識調査	朝日新聞社	14 年
阪神大震災 2 年後の住民意識調査	朝日新聞社	8 年	災害に関する市民意識調査	三田市	7 年
阪神大震災後の仮設住宅居住者意識	朝日新聞社	8 年	防災に関する市民意識調査	岡山市	7 年
阪神大震災 3 年後の住民意識調査	朝日新聞社	9 年			
災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13 年	地域防災計画策定	波崎町	8 年
阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13 年	地域防災計画策定	豊富村	9 年
自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13 年	東海地震についての防災講演企画画運営	静岡県	7 年
災害写真データベース作成	東京大学	12 年	掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定	掛川市	16 年
富士山噴火住民アンケート	東京大学	13 年	地域防災計画修正	掛川市	12 年
安全観についての住民意識調査	東京大学	14 年	伊豆市地域防災計画策定	伊豆市	16 年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査	東京大学	14 年	防災計画策定	河津町	7 年
災害や事故が社会生活に与える影響調査	東京大学	14 年	地域防災計画策定	伊豆長岡町	8 年
災害情報に対する民間企業の対応調査	東京大学	14 年	防災パンフレット作成	伊豆長岡町	9 年
自治体の火山噴火についての地域防災計画画調査	東京大学	14 年	地域防災計画修正	伊豆長岡町	14 年
富士山噴火による企業影響調査	東京大学	14 年	地域防災計画策定	修善寺町	8 年
住民の対応と情報の伝達についての調査—神戸・塚原市編—	東京大学社会情報研究所	7 年	防災キャンペーンイベント企画運営	土肥町	7 年
住民の対応と情報の伝達についての調査—西宮・芦屋市編—	東京大学社会情報研究所	7 年	防災計画策定	土肥町	7 年
過密空間における人間行動意識に関する調査	東京大学社会情報研究所	9 年	防災マニュアル策定	土肥町	8 年
帰宅難民対応についての事業所調査	東京大学社会情報研究所	10 年	地域防災計画修正	土肥町	15 年
大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	10 年	地域防災計画策定	榛原町	8・13 年
平成 1 0 年 8 月集中豪雨災害についての調査	東京大学社会情報研究所	10 年	域防災計画修正	榛原町	14 年
河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査	東京大学社会情報研究所	11・12 年	地域防災計画修正	吉田町	12 年
東海川臨界事故時の行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	11 年	地域防災計画策定	金谷町	8 年
東京都「広域避難所」の管理体制についての調査	東京大学社会情報研究所	11 年	地域防災計画策定	水窪町	8 年
防災用語についてのアンケート	東京大学社会情報研究所	11 年	地域防災計画策定	舞阪町	8 年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査	東京大学社会情報研究所	12 年	地域防災計画策定	細江町	8 年
東海水害被災者調査	東京大学社会情報研究所	12 年	職員初動マニュアル作成	東郷町	14 年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	12 年	防災マップ作成	東郷町	14 年
「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査	東京大学社会情報研究所	13 年	地域防災計画策定	東郷町	13・14 年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年	地域防災計画策定	西春町	15 年
B S E（狂牛病）についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年	防災新聞作成	西春町	15 年
芸予地震に関する住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13 年	地域防災計画等修正	甚目寺町	15 年
環境安全についての住民アンケート	東京大学社会情報研究所	14 年	防災に関する講演会	甚目寺町	15 年
2 0 0 3 年 5 月宮城県沖を震源とする地震住民調査	東京大学社会情報研究所	15 年	洪水ハザードマップ作成	甚目寺町	16 年
火山周辺自治体の地域防災計画内容分析	東京大学社会情報研究所	15 年	地域防災計画等修正	甚目寺町	14 年
火山噴火災害についての観光企業アンケート調査	東京大学社会情報研究所	15 年	自主防災組織活動マニュアル作成	二見町	15 年
宮城県北部地震に関するアンケート	東京大学社会情報研究所	15 年	職員災害初動マニュアル等作成	二見町	15 年

福岡県西方沖の地震についてのアンケート調査

平成 17 年 5 月

株式会社 サーベイリサーチセンター

本	社) 〒116-8581	東京都荒川区西日暮里 2-40-10
	TEL	03-3802-6711 代)
	FAX	03-3802-6730
社会情報部)	TEL	03-3802-6716
	FAX	03-3802-6738

本書の記載内容の無断転載を禁ず。
なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、
社会情報部 中島宛 E mail : naka_r@surece.co.jp)にお申し出ください。



株式会社 **サーベイリサーチセンター**
SURVEY RESEARCH CENTER CO., LTD.

本社
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号 〒116-8581
TEL : (03)3802-6711 (大代表) / FAX : (03)3802-6730

東北事務所
仙台市青葉区二日町11番11号 〒980-0802
TEL : (022) 225-3871 (代) / FAX : (022) 225-3866

静岡事務所
静岡市葵区呉服町1丁目6番11号 〒420-0031
TEL : (054) 251-3661 (代) / FAX : (054) 252-6544

名古屋事務所
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号 〒450-0002
TEL : (052) 561-1251 (代) / FAX : (052) 561-1254

大阪事務所
大阪市北区天満橋1丁目8番30号 〒530-6011
TEL : (06) 4801-9231 (代) / FAX : (06) 4801-9233

岡山事務所
岡山市大供2丁目1番1号 〒700-0913
TEL : (086) 226-8031 (代) / FAX : (086) 226-8030

広島事務所
広島市中区鉄砲町9番10号 〒730-0017
TEL : (082) 227-7511 (代) / FAX : (082) 227-7558

四国事務所
高松市塩屋町8番1号 〒760-0047
TEL : (087) 811-2671 (代) / FAX : (087) 821-0933

九州事務所
福岡市博多区博多駅前3丁目30番26号 〒812-0011
TEL : (092) 411-8811 (代) / FAX : (092) 411-8851

ホームページ <http://www.surece.co.jp/>

